慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	古今和歌集注釈書・伝授書年表(稿)
Sub Title	A chronological table of annotated books for Kokinshu
Author	川上, 新一郎(Kawakami, Shinichiro) 佐々木, 孝浩(Sasaki, Takahiro) 伊倉, 史人(Ikura, Fumito) 山本, 令子(Yamamoto, Reiko) 石神, 秀美(Ishigami, Hidemi)
Publisher	慶應義塾大学附属研究所斯道文庫
Publication year	2012
Jtitle	斯道文庫論集 (Bulletin of the Shidô Bunko Institute). No.47 (2012.) ,p.330(125)- 454(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	別タイトルの表記 : A chronogical table of annotated books for Kokinshu
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00106199-20120000-0330

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古今和歌集注釈書・伝授書年表（稿）

川　上　新一郎・佐々木　孝　浩
伊　倉　史　人・山　本　令　子
石　神　秀　美

凡例

1、本稿は主として、先に刊行した慶應義塾大学附属研究所斯道文庫編『古今集注釈書伝本書目』（勉誠出版、2007、以下『書目』と称す）に掲げた伝本の奥書を基に作成した。

1、日記、記録などによって知られる事項には及ばない。従って、重要事項を欠いている場合がある。

1、改元のある年の元号については、原則として奥書の表記に従った。改元月日と矛盾する場合は注記した。

1、月日の表示は「月･日」で示し、月のみの場合は「月－」とした。したがって、「11･6～12」とあれば、11月6日から12日の意であり、「11･6～12－」とあれば、11月6日から12月某日の意である。

1、奥書に年月日を欠く場合は掲げない。書写者の生存年代等による推定は行わない。

1、奥書等に欠字、難読文字がある場合は□で示した。

1、注釈書・伝授書の呼称は『書目』の通称書名によった。

1、相伝、伝受、伝授、付与、授与、書写などの用語は奥書そのものによった場合も多いが、必ずしも厳密ではない。

1、関連ある奥書が列記されている場合、矢印（⇒及び⇐）によって参照符号とした。「⇒1184」とあれば、1184年の奥書がつぎに書かれる場合があることを示し、「⇐1221」とあれば、1221年の奥書に続いて当年の奥書が書かれる場合があることを示す。この場合、直前、直後の年号のみ示す。なお、奥書の関連については解釈に問題がある場合が多く、参照符号はあくまで目安である。

1、「○○本による」とは、奥書に見える依拠した底本の意である。

1、明らかに偽奥書と考えられるものには（偽奥書）、疑わしいものには（疑）と表示した。

1、典拠とした伝本名を略記し、検討の資とした。この場合、一二の本を示すにとどめた。多くの本に現れる場合は「諸本」とした。函架番号などは省略した場合があるので、詳しくは『書目』と併用されたい。

1、典拠に示した伝本は、原則として調査済のものとしたが、なお、下記の文献も参照した。

片桐洋一『中世古今集注釈書解題』全6巻（赤尾照文堂、1971～87）

川平ひとし「『僻案抄』書誌稿（一）～（三）」（「跡見学園女子大学紀要」第16、17、18号、1983・3、1984・3、1985・3）＊『中世和歌テキスト論』（笠間書院、2008）所収

海野圭介「顕注密勘伝本考」（伊井春樹編『古代中世文学研究論集　第一集』所収、和泉書院、1996）

「片桐洋一教授所蔵古今伝授書解題」（関西大学「国文学」第83、84合併号、2002・1）

1142（永治 2） 4 上旬

永治二年清輔本古今集奥書

1154（仁平 4） 10 上旬

仁平四年清輔本古今集奥書⇒ 1488（三流抄）

1157（保元 2） 5 －

保元二年清輔本古今集奥書⇒ 1337、1489（蓮心院殿説古今集註合写）、1531、1542（阿古根浦口伝（6）合写）

1167（仁安 2） 7・2

古今序註（勝命）の真名序注成立（陽明文庫本）⇒ 1168

1168（仁安 3） 3・4

古今序註（勝命）の仮名序注書写（江家本による）（陽明文庫本）⇐ 1167・⇒ 1184

1177（治承 1） 9・12 ～ 23

古今教長注成立（京都大学本）⇒ 1241

1183（寿永 2） 12 －

顕昭注（序注）を顕昭、守覚法親王に奉る（諸本）⇒ 1186

1184（元暦 1） 5・18

古今序註（勝命）を素命書写（陽明文庫本）⇐ 1168・⇒ 1334

1185（文治 1） 10・8 ～ 11・17

顕昭注（歌注）を顕昭、守覚法親王に奉る（諸本）⇒ 1191

1186（文治 2） 1・24

顕昭注（序注）に顕昭声点を加える（諸本）⇐ 1183・⇒ 1191

1191（建久 2） 3・6 ～ 9・5

顕昭注に顕昭再び声点を加え、守覚法親王に奉る（諸本）⇐ 1185、1186・⇒ 1281

1192（建久 3） 7 －

和歌口伝（伝家隆）に大中臣忠光奥書（偽奥書）（諸本）⇒ 1726、1730（三木三鳥〔西三条家伝〕合写）

＊本書『書目』には採用せず

1206（建永 1） 9・28 ～ 10・2

顕昭本古今集、顕昭より〔石清水別当幸清〕に授けらる（宮内庁書陵部本伏 230）

1221（承久 3） 3・28（版本等は 3・21）

顕注密勘における定家の密勘成立、閏 10・12、定家書写（諸本）⇒ 1280、1292、1366、1499、1625

1226（嘉禄 2） 8 －

僻案抄（定家）成立（諸本）⇒ 1236、1240、1343、1364、1470、1478、1731、1752

1236（嘉禎 2）

この年、僻案抄を定家、順徳院に送る（諸本）⇐ 1226・⇒ 1240、1260、1278、1304

1240（延応 2） 6 －

僻案抄を定家、藤原長綱に与える（諸本）⇐ 1226、1236・⇒ 1343、1380、1391、1481、1490、1806、1819、1857

1241（仁治 2） 4・26 ～ 7・23

古今教長注書写（京都大学本）⇐ 1177

1255（建長 7）11・22～翌年 1・9

三秘抄の講義を為家、某に行い、相伝（偽識語）（諸本）⇒ 1532

1259（正元 1）3・23

大江広貞注を為家、為相に相伝（偽奥書）（諸本）⇒ 1297

＊改元は 3・26

1260（文応 1）2－

僻案抄を譲られた法印大和尚良守、後年奥書（京都大学中院文庫本Ⅵ 153、早稲田大学本）⇐ 1236・⇒ 1289

＊改元は 4・13、但し、奥書の執筆は後年と見られる

1263（弘長 3）8・4

為家抄を為家、宗尊親王に奉る（仮名序末、偽奥書）（諸本）⇒ 1301、1597、1697、1701

1264（文永 1）6・15

為家序抄成立（京都大学中院文庫本・彰考館本）⇒ 1559（中院本）

1278（弘安 1）11 上旬

寂恵本古今集（上冊）書写（宮内庁書陵部本）、下冊も書写

同　11・22

僻案抄を為兼書写（斯道文庫本 091・ト 36）⇐ 1236

同　閏 12・18

三流抄に能基奥書（片桐洋一本〈片桐洋一著書による〉）

＊弘安 9 とも、当年閏 12 月なし、1286 参照

1280（弘安 3）8・4

顕注密勘を慶融書写（諸本）⇐1221・⇒1332、1351、1657、1729

1281（弘安 4）11・6 ～ 12

このころ顕昭注を飛鳥井雅有書写（諸本）⇐1191・⇒1282

1282（弘安 5）1・25 ～ 2・26

顕昭注を飛鳥井雅有一校（諸本）⇐1281・⇒1538、1640、1688、1706

1286（弘安 9）12・18

三流抄に能基奥書（東京大学国文学研究室本）

＊弘安 1 とも、当年に掛けるのが正か、1278 参照

1287（弘安 10）7・12

弘安十年古今集歌注奥書（初雁文庫本 12・209、佐賀県立図書館本）⇒1638

1289（正応 2）9・29

僻案抄を書写、10・8、校合（京都大学中院文庫本Ⅵ 153、早稲田大学本）⇐1260・⇒1473

1290（正応 3）9・3

僻案抄を冷泉為相書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 153 校合本）⇒1299

1291（正応 4）閏 6・□ 4

古今秘注抄〔京大本〕を上観、某に伝授（京都大学中院文庫本）⇒1320

1292（正応 5）1・19

顕注密勘書写（定為法印本による）（内閣文庫本 200・15）⇐1221・⇒1323

1297（永仁 5）3・13

大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕に為相奥書（偽奥書）（諸本）⇒1504、

1660、1663、1691

同　3・15
大江広貞注を為相、大江広貞に相伝（偽奥書）（諸本）⇐1259・⇒1683

1299（正安 1）2・17
古今和歌集灌頂口伝に二条為世奥書（初雁文庫本・桃園文庫本 26・65）
＊改元は 4・25、悦目抄の奥書で古今和歌集灌頂口伝の奥書にあらず

同　6・30
僻案抄を真□書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 153 校合本）⇐1290

1301（正安 3）3・8
為家抄奥書（偽奥書）（大阪府立中之島図書館本古今集諸抄、宮内庁書陵部本 210・707）⇐1263

1304（嘉元 2）2 下旬
僻案抄を書写、定家自筆本で校合（佐賀大学本）⇐1236

1305（嘉元 3）1・21 ～ 29
古今訓点抄（度会延明）、延明訓説を受け成立（諸本）

同　10・3
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕（合写）に慈覚が源俊阿闍梨に相伝の奥書（九州大学支子文庫本）
＊成立と無関係

1306（徳治 1）7 －
古今和歌灌頂巻に為顕奥書（疑）（神宮文庫本 3・323）⇒1353
＊改元は 12・14

1307（徳治 2）10・7
三流抄書写（関西大学本）

1314（正和 3）4・5
行乗、定為より講義を受く（六巻抄）（諸本）⇒1328

1319（文保 3）2 －
千金莫伝に年記あり（大東急記念文庫本）

1320（元応 2）10 －
古今秘注抄〔京大本〕奥書（京都大学中院文庫本）⇐1291

1323（元亨 3）5・20
顕注密勘を「法眼」書写（内閣文庫本 200・15）⇐1292・⇒1341

同　7・20
古今和歌灌頂巻に冷泉為助（ママ）奥書（偽奥書）（諸本）⇒1504（大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕合写）、1568、1594、1711、1735、1832、1851

1327（嘉暦 2）8 －
古今大事に年記（京都大学本、東北大学本）⇒1458

1328（嘉暦 3）
行乗、前年冬より為世に伝授を受け、この年 2・3、奥書を受く（六巻抄成立）（諸本）⇐1314・⇒1461、1584

同　9・1
顕注密勘を叡山西塔北尾善光坊（上冊）、9・19、洛陽勘外由小路朱雀（中冊）において書写（宮内庁書陵部本 501・672、同 405・93）⇒1331・1365・1411

1331（元徳 3）6・23

浄弁注成立（東海大学桃園文庫本）

同　6・25 ～ 7・9

顕注密勘（上中冊）書写（宮内庁書陵部本 501・672、405・93）⇐ 1328・⇒ 1365、1411

同　10・21

古今秘聴抄を元盛、某に奉る（曼殊院本）

＊改元は 8・9

同　□（月不明）・17

為秀より相伝の古今集注釈を書写（お茶の水図書館本古今集注奥書）⇒ 1404

1332（元弘 2）4・12

顕注密勘を愛徳丸書写（宮内庁書陵部本 501・672、405・93）⇐ 1280・⇒ 1411

1334（建武 1）7・2

古今序註（勝命）に浄弁識語（陽明文庫本）⇐ 1184

1337（建武 4）2・1

浄弁、保元二年清輔本古今集の内、作者目録を書写（宮内庁書陵部本三条西家本聞書集成奥書）⇐ 1157・⇒ 1515

＊本来貞応本古今集の奥書か（龍門文庫本古今集奥書）

1341（暦応 4）11・3

顕注密勘書写（内閣文庫本 200・15）⇐ 1323

1342（康永 1）10・26

康永元年奥書本古今和歌集抄を定本（人名か）書写（この年 6・26 ～ 8・6、定本、

寿暁房の相伝を受けた本然房より口伝さる）（京都大学本）

1343（康永 2）3・16
僻案抄を「散位藤」書写（「少将殿御本」による）（神宮文庫本 3・376〈川平ひとし論文による〉）⇐ 1226、1240・⇒ 1364

1351（観応 2）10・2
顕注密勘（中冊）を某伝領（京都大学中院文庫Ⅵ 25）⇐ 1280・⇒ 1380

1353（文和 2）9 －
古今和歌灌頂巻に和阿識語（神宮文庫本 3・323）⇐ 1306・⇒ 1381

1357（延文 2）8・14
顕注密勘（上冊）を仲顕書写（右京権大夫長信入道本による）（初雁文庫本 12・81、京都大学本、三手文庫本）⇒ 1406

1361（康安 1）12・3
為忠序注成立、源範実奥書（東山御文庫本）⇒ 1535

1364（貞治 3）2・9
僻案抄に「右羽林郎将」奥書（神宮文庫本 3・376〈川平ひとし論文による〉）⇐ 1343

同　3・18
僻案抄を「鵜首武衛藤」〔二条為遠〕書写（斯道文庫本 092・ト 32 校合本）⇐ 1226・⇒ 1449

1365（貞治 4）1・4
顕注密勘（中冊）に時習軒奥書（宮内庁書陵部本 501・672、405・93）⇐ 1328・1331・⇒ 1411

1366（貞治 5）2・9

顕注密勘書写校合（定家自筆本による）（國學院高校本、内閣文庫本 200・15）⇐ 1221

1370（応安 3）9・5

顕注密勘（中冊）書写一校（中央大学本、三手文庫版本校合本）

同　9・29

為重注成立（東海大学桃園文庫本等諸本）⇒ 1671、1677

＊兼好注は為重注の一本

1376（永和 2）3・11

古今集口訣を「従四位藤」書写（宮内庁書陵部本、九州大学本）⇒ 1594

1380（康暦 2）8 －

僻案抄を二条為重書写（東海大学桃園文庫本 27・4、27・5、27・6、三手文庫本）⇐ 1240・⇒ 1681

同　10・2

顕注密勘（中冊）に某伝領識語（京都大学中院文庫本Ⅵ 25）⇐ 1351・⇒ 1412

1381（永徳 1）9・10

古今和歌灌頂巻に実玄庵奥書（神宮文庫本 3・323）⇐ 1353・⇒ 1657

1385（至徳 2）5・6

明疑抄を逍遙院（三条西実隆）書写（宗祇本による）（諸本）

＊諸本「至徳二年」とあるが年代齟齬、仮に「延徳二年」の誤りとする、1490 参照

1389（康応 1）11 上旬

古今漢字抄（佐々木高秀）成立（國學院大學本）

1390（明徳 1）3 －

阿古根浦口伝（1）関連を今川了俊書写（大阪府立中之島図書館本）⇒ 1727

1391（明徳 2）2・1

僻案抄を「右近大将藤原」〔花山院通定〕、某に相伝（斯道文庫本 092・ト 26、同 091・ト 160、東山御文庫本勅封 63・3・1・18）⇐ 1240・⇒ 1477、1663

同　6・13

顕注密勘（下冊）を校合（萩原殿御本＝為秀自筆本による）（中央大学本、三手文庫版本校合本）

＊ 1493 参照、「明徳」と「明応」いずれか誤りの可能性あり

1403（応永 10）9 －

和歌灌頂次第秘密抄を藤原為将書写、中臣俊昌に与う（静嘉堂文庫本 105・5・18689）

＊『書目』未載

1404（応永 11）3・3

和歌灌頂次第秘密抄書写（宮内庁書陵部本 503・239）

同　2 －

お茶の水図書館本古今集注を今川了俊、諸井源蔵人に授与（お茶の水図書館本古今集注奥書）⇐ 1331

1406（応永 13）1・30

顕注密勘（上冊）を書写（梶井宮本による）（初雁文庫本 12・81、京都大学本、三手文庫本）⇐ 1357・⇒ 1641

同　8上旬
了誉序注成立（諸本）⇒1535、1544、1658、1798、1851

1411（応永18）4－
顕注密勘を書写（仁和寺常光院本）（宮内庁書陵部本501・672）⇐1331、1332、1365・⇒1454

同　3・9
古今和歌集聞書（耕雲）成立、10－、増補（天理図書館本、龍谷大学本、東山御文庫本）⇒1440

同　10・16
三流抄を「右近衛権中将」書写（東北大学本）⇒1573

1412（応永19）4・3
顕注密勘（中冊）一校（京都大学中院文庫本Ⅵ25）⇐1380・⇒1417

1413（応永20）5・9
古今和歌灌頂巻・和歌灌頂次第秘密抄を〔後崇光院〕書写（静嘉堂文庫本）⇒1865

同　5－
為家抄に混入する佚名注奥書（宮内庁書陵部鷹司本古今為家抄）⇒1423

1416（応永23）3－
古今和歌集姫小松・二条冷泉飛鳥井三流口伝集成を某伝受（天理図書館本）⇒1574

1417（応永24）6・4
破窓不出書（四辻善成）成立（宮内庁書陵部本）⇒1432

同　5・18

顕注密勘（中冊）書写、閏5・26、一校（京都大学中院文庫本Ⅵ25）⇐1412・⇒1423

1418（応永25）8・25～10・9

常縁古今和歌集聞書書写（常縁作ではない）（京都府立総合資料館本）

1420（応永27）4－

阿古根浦口伝（1）を今川範政書写（宮内庁書陵部鷹司本、彰考館文庫本）⇒1581、1592

1423（応永30）6上旬

為家抄に混入する佚名注奥書（宮内庁書陵部鷹司本古今為家抄）⇐1413・⇒1428

同　9・15

顕注密勘（中冊）書写、9・16、一校（京都大学中院文庫本Ⅵ25）⇐1417

同　11・3

内閣文庫本古今和歌集注に師成親王奥書す（成立か）（内閣文庫本）⇒1481

1425（応永32）12・28

親房注を師成親王書写（正平年中、親房、後村上院の仰せで著述）（諸本）⇒1441、1699、1708、1854

1427（応永34）12－

玉伝深秘巻に年記（名古屋大学本）⇒1586

1428（応永35）3・30

平松抄書写（京都大学平松文庫本）⇒1443

同　5・21
為家抄に混入する佚名注書写（宮内庁書陵部鷹司本古今為家抄奥書）⇐1423・⇒1451

＊改元は4・27

1431（永享3）1・14～18
古今和歌集灌頂口伝・玉伝深秘巻（金玉双義）を明叡書写（初雁文庫本12・163）⇒1675

1432（永享4）8・4
顕注密勘書写（初雁文庫本12・84）

同　9・21
破窓不出書書写（宮内庁書陵部本）⇐1417・⇒1438

1435（永享7）9・1
和歌灌頂次第秘密抄を正徹書写（尊経閣文庫本）

1437（永享9）5－
古今口伝集書写（静嘉堂文庫本、篠山鳳鳴高校本）

1438（永享10）10・5
破窓不出書書写（宮内庁書陵部本）⇐1432

1439（永享11）6－
三流抄を某書写、橘重清に相伝（初雁文庫本12・144）

1440（永享12）1・20
古今和歌集聞書（耕雲）を源真書写（龍谷大学本）⇐1411

1441（嘉吉 1）6・26
親房注書写（京都大学中院文庫本）⇐ 1425・⇒ 1485

1443（嘉吉 3）1・16
三流抄を権少僧都久増書写（昨年 12 －、借る）、（東山御文庫本）⇒ 1544

同　4 －
平松抄書写（京都大学平松文庫本）⇐ 1428・⇒ 1529

同　12・27
古今集作者目録に尭孝奥書、但し、同年 12・22 の古今集書写に関わるものか（京都大学中院文庫本、内閣文庫本、島原松平文庫本）

1449（宝徳 1）10・9
僻案抄に追識語（斯道文庫本 092・ト 32）⇐ 1364

1450（宝徳 2）6 －
古今和歌集三条抄を掃部助信秀書写（臼杵市立図書館本）

同　秋
古今持為注の講義行われる（花頂殿〔教助？〕の望による、明献同聴）（諸本）⇒ 1477

1451（宝徳 3）
この年の年記、為家抄に混入する佚名注にあり（宮内庁書陵部鷹司本古今為家抄）⇐ 1428・⇒ 1471

1454（享徳 3）11・14 ～ 1455（康正 1）8・21
顕注密勘を尊勝丸書写（宮内庁書陵部本 501・672）⇐ 1411・⇒ 1672

1455（康正 1）11・7

明疑抄を東常縁書写（二条為世真筆本による）（東山御文庫本）⇒1490

1458（長禄 2）7・20

古今大事書写（法雲〈法印とも〉禅師本による）（京都大学本、東北大学本）⇐1327・⇒1474

1461（寛正 2）9・9～翌年 9・20

六巻抄を円雅書写せしめ常縁に与える（諸本）⇐1328・⇒1491

1466（文正 1）5 上旬

古今和歌集注（国会図書館本、毘沙門堂本古今集注関連）を智妙書写

1470（文明 2）2・25

雑秘抄（陽明文庫本、顕注密勘〔抄出本〕を含む）を「桑門」某書写⇒1495

同　8 中旬

僻案抄を三条公敦書写（斯道文庫本 091・ト 37）⇐1226・⇒1480

1471（文明 3）1・28～4・8、6・12～7・25

宗祇、東常縁より両度聞書を受く（諸本）⇒1472

同　4－

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授（附録の源氏物語部分）を一条兼良書写し、大内政弘に与う（東北大学狩野文庫本）⇒1480

同　5－

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕に奥書（三重県立図書館本）⇒1676

＊成立時期との関係未詳

同　9・27
為家抄に混入する佚名注を冷泉永宣書写（宮内庁書陵部鷹司本古今為家抄）
⇐1451

1472（文明4）5・3
両度聞書に常縁加証（諸本）⇐1471・⇒1497、1518、1528、1531、1667
＊この奥書十口抄に転記さる

1473（文明5）4下旬
僻案抄を太忱書写（京都大学中院文庫本Ⅵ153、早稲田大学本）⇐1289・⇒1487

1474（文明6）2・9
古今大事を上総介源忠直書写（京都大学本、東北大学本）⇐1458・⇒1602

同　5－
及びこのころ、文明六年本聞書（三条西実隆）成立（斯道文庫本）

1475（文明7）3・25
三流抄書写（東海大学桃園文庫本26・54）

1476（文明8）6中旬
古今集童蒙抄を一条兼良書写（諸本）⇒1501、1619、1631、1638、1663、1671

同　10－
勧修寺本古今和歌集注を良珎書写（九州大学本）⇒1628

1477（文明9）閏1中旬
僻案抄を四辻季経勅命により書写（斯道文庫本091・ト160）⇐1391・⇒1490

同　3－

古今持為注を宗雅、明献より伝えらる（諸本）⇐1450・⇒1496、1632、1739

同　4・5
常縁抄を常縁、宗祇に与う（大倉精神文化研究所本）

1478（文明10）2上旬
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を一条兼良書写（学習院大学本）

同　4－
僻案抄を中御門宣胤書写（妙法院教覚本による）、姉小路基綱本で校合（斯道文庫本091・ト290、中野幸一本〈川平ひとし論文による〉）⇐1226・⇒1540、1558

1480（文明12）2－
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を可睡斎書写（初雁文庫本12・178、九州大学本、静嘉堂文庫本等諸本）⇒1790、1841、1847、1857
＊年記の失われた本、可睡斎の名を欠く本あり、可睡斎は不詳

同　2・12
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授（附録の源氏物語部分）を一条冬良書写（東北大学狩野文庫本）⇐1471
＊前項との関係不明

同　8－
僻案抄を三条公敦校合（斯道文庫本091・ト37）⇐1470

同　8・4
古今集聞書并和歌抄（東山御文庫本、歌注〔中世〕）書写

1481（文明13）1－
内閣文庫本古今和歌集注を三条公敦書写（内閣文庫本、広島大学本）⇐1423

＊『書目』で〔古今集古注〕（広島大学本、歌注〔中世〕）とせるは、内閣文庫本古今和歌集注の零本

同　2－
僻案抄を〔飛鳥井雅康〕書写（斯道文庫本092・ト25）⇐1240

同　8・18
古今和歌集伝受制法（無窮会平沼文庫本、伝授書）を肖柏、宗祇より伝受

同　9・26
烏丸光広古今聞書原本成るか（宮城県図書館本）⇒1699

1482（文明14）1－
古今集抄（東海大学桃園文庫本、古聞関連）に宗祇奥書⇒1491

同　1・10
古今和歌集見聞愚記抄を東頼常書写（宮内庁書陵部本古今秘伝集）

同　古聞の宗祇講釈、前年8・18より肖柏に行われ、この年3－、宗祇奥書（諸本）⇒1487、1511

同　6－
古今切紙口伝条々［宗祇流］に宗祇奥書（龍谷大学本911.201・3）

1483（文明15）7下旬
和歌灌頂次第秘密抄を宗藝書写（曼殊院本）

1484（文明16）12－
八雲神詠秘訣に卜部兼倶識語（諸本）⇒1509

同　12・6～文明18年2・10
宗祇略抄このころ成立（宮内庁書陵部本266・145、東北大学狩野文庫本）

1485（文明17）12・23
親房注を法眼英全書写（京都大学中院文庫本）⇐1441・⇒1686

1486（文明18）2・17
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を良鎮、松陰に付属せしむ（東山御文庫本勅封63・1・2・8）

同　6・15
古今和歌集灌頂口伝・歌道之六義（合写、古今和歌集奥儀并口伝等合三巻と称す）に宗祇奥書（天理図書館吉田文庫本81・29）⇒1503

同　10－
古今三ヶ大事（蓬左文庫本、伝授書）を宋世書写

1487（長享1）5・3
延五記〔古今声句相伝聞書〕を尭恵、今川氏世に奉る（宮内庁書陵部鷹司本）⇒1658

＊改元は7・20

同（文明19）　6－
古聞に肖柏加筆し、宗祇奥書（諸本）⇐1482・⇒1490、1496

同（長享1）　8下旬
僻案抄を仙源書写（京都大学中院文庫本Ⅵ153、早稲田大学本）⇐1473・⇒1505、1594

1488（長享2）6・28

三流抄（合写）を良朝書写（明誉本による）（多和文庫本）⇐1154

1489（長享 3）2・5

古今和歌集書入注〔秋月郷土館本〕に尭恵奥書

同　3・11 ～ 21

古今和歌集〔注〕（斯道文庫本、難波津泰謎聞書関連、現存部分）講釈⇒1490

＊『書目』では延徳 2 ～ 3 年講釈としたのを、長享 3 ～延徳 2 年講釈に改める

同　3・12 ～ 4・14

蓮心院殿説古今集註講釈（河野美術館本、東山御文庫本、広島大学本等）⇐1157

1490（延徳 2）2 －

僻案抄を宋世（飛鳥井雅康）書写（秋月郷土館本〈川平ひとし論文による〉）⇐1240

同　3 －

古聞の序・巻十・二十の講釈を宗祇再び肖柏に行う（諸本）⇐1487・⇒1496

＊一連の古聞奥書、十口抄に転記さる

同　5・6

明疑抄を実隆書写（宗祇本による）（東山御文庫本等諸本）⇐1455・⇒1683、1700

＊諸本「至徳二年」とあるを仮に「延徳二年」の誤りとする（鶴見大学本は「延徳」とも読みうる）、1385 参照

同　5 上旬

千金莫伝書写（斯道文庫本）

同　5 中旬

僻案抄に定家筆透写本を校合（四辻季経か）（斯道文庫本 091・ト 160）⇐ 1477・⇒ 1665

同　8 上旬
浄弁注（抄出本）を愛雲子〔姉小路基綱〕、姉小路済継に書写せしむ（慶応大学本）⇒ 1498

同　8 下旬
古今集童蒙抄〔古今集釈義〕を良鎮、英固法印に付属せしむ（京都大学中院文庫本）

同　10・27 ～ 11・10
古今和歌集〔注〕（斯道文庫本、難波津泰諶聞書関連、現存部分）再講釈⇐ 1489

1491（延徳 3） 3・15
六巻抄を尭恵、経厚に相伝、識語す（曼殊院本）⇐ 1461

同　3・22
為家抄（仮名序注）を尭恵書写（延五記〔古今声句相伝聞書〕等と合写）（宮内庁書陵部本 501・445）⇒ 1729

同（長享 5）　8 中旬
古今集抄（東海大学桃園文庫本、古聞関連）を兼載書写（肖柏筆本による）⇐ 1482
＊奥書に「長享五年」とあり不審、いまここに掲げる

同（延徳 3）　12・4 ～翌年 2・8
難波津泰諶聞書成立（宗祇が宗長に講義、泰諶同聴）（曼殊院本）⇒ 1519、1540

1492（明応 1） 8 上旬
古今切紙口伝条々〔宗祇流・内外口伝歌〕を三条西実隆書写（鶴見大学本）

＊明応 9 の誤か、1500 参照

同（延徳 4） 8・26
尭恵、貞応本古今集に家の秘伝を書入（三輪正胤本、延五記関連）
＊改元は 7・19

同 10・26
延五記（古今声句相伝聞書、序中秘伝切紙、古今集中本歌証歌をふくむ）を尭恵、藤原憲輔に伝授（諸本）⇒ 1565、1567、1588（二項）、1613、1722、1854

同 10・26
古今集血脈抄に尭恵の奥書あるも、上記延五記の書入転記（諸本）⇒ 1567

同
この年、尭恵、嘉禄本古今集に家の秘伝を書入（古今和歌集書入注〔陽明文庫本〕）

1493（明応 2） 1・12
古今涇渭抄を東氏胤書写（谷山茂本〈片桐洋一著書による〉）⇒ 1687

1494（明応 3） 2・18
延五記〔古今声句相伝聞書〕を尭恵、慶玉殿（経厚）に相伝（尊経閣文庫本）⇒ 1644

同 6 上旬
顕注密勘（中冊）校合（萩原殿御本＝為秀自筆本による）（中央大学本、三手文庫版本校合本）⇐ 1391 参照・⇒ 1558

同 6・16
或聞書（難波津泰謎聞書関連）を「中務丞」より土岐浜豊後入道宗元相伝（曼殊院本）

1495（明応 4） 2・28

弘安十年古今集歌注〔尊経閣文庫本〕を忠慶書写（角田頼存より相伝）（尊経閣文庫本）⇒1496

同　5・6

延五記〔古今集中本歌証歌〕に尭恵奥書（尊経閣文庫本、九州大学本）

同　5・20

橋本公夏、尭恵より相伝聞書開始（橋本公夏聞書）（東海大学桃園文庫本）⇒1497

同　6・5

雑秘抄（陽明文庫本、顕注密勘〔抄出本〕を含む）を上原賢家書写（安富元信本による）⇐1470・⇒1509

1496（明応 5） 5・17

弘安十年古今集歌注〔尊経閣文庫本〕を登誉書写（尊経閣文庫本）⇐1495・⇒1537

同　6 上旬

古今持為注を宗雅、紹慶に相伝（広島大学本）⇐1477

同　7 上中旬

古聞に肖柏再加筆（諸本）⇐1487・1490 ⇒1503

1497（明応 6） 5・20

橋本公夏聞書成立（東海大学桃園文庫本）⇐1495

同　11・23

両度聞書仮名序を近衛尚通書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料等）⇐1472・⇒1498、1504、1510、1580

1498（明応 7）8・26

両度聞書歌本文を近衛尚通書写校合（宮内庁書陵部本古今伝受資料等）⇐ 1497・⇒ 1526、1532

同　10・28

浄弁注（抄出本）書写（慶応大学本）⇐ 1490

1499（明応 8）6・22

顕注密勘を「羽林藤」書写（初雁文庫版本 12・83 校合本）⇐ 1221・3・21・⇒ 1722

1500（明応 9）1・9、28

〔古今集口伝書〕（蓬左文庫本、伝授書）書写

同　8 上旬

古今切紙口伝条々〔宗祇流・内外口伝歌〕を三条西実隆書写（諸本）⇒ 1503、1507、1517、1576

＊ 1492 とするは誤か、1492 参照

1501（文亀 1）1 上旬

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授書写（ノートルダム清心女子大学本）

＊改元は 2・29

同　6・7 ～ 9・18

宗祇、宗碩に講義、宗碩聞書成立（慶応大学本等諸本）⇒ 1601、1807

＊この奥書十口抄に転記さる

同　11 上旬

古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を一条冬良書写（九州大学本、斯道文庫本 091・ト 162、獅子園文庫本等）⇐ 1476・⇒ 1509（二項）、1851

同　11 －
顕昭の古今集注から詞花集注までを一条冬良書写（宮内庁書陵部本顕昭「詞花集注」奥書）

1502（文亀 2） 3 －
文亀二年宗祇注成立（諸本）⇒ 1683

1503（文亀 3） 1・11 ～ 2 中旬
古聞を肖柏、源頼則に講釈、加筆（諸本）⇐ 1496・⇒ 1506

同　4・18
古今切紙口伝条々〔宗祇流・内外口伝歌〕を書写（諸本）⇐ 1500・⇒ 1517

同　8・20
古今和歌集灌頂口伝・歌道之六義を姉小路基綱書写（天理図書館吉田文庫本 81・29）⇐ 1486・⇒ 1505

1504（永正 1） 4・29
大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕を前大僧正静賢浅間社に奉納（宮内庁書陵部本鷹 250、初雁文庫本）⇐ 1297・⇒ 1660

同　4・29
古今和歌灌頂巻（大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕合写）を前大僧正静賢浅間社に奉納（宮内庁書陵部本鷹 266・243）⇐ 1323・⇒ 1660

同　7・5
両度聞書仮名序を「参議藤原」書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 53）⇐ 1497・⇒ 1552

1505（永正 2） 8・7
僻案抄を某校合（京都大学中院文庫本Ⅵ 153）⇐ 1487

同　9・16
古今集童蒙抄〔古今集釈義〕を「桃竹禿居士」（良鎮）、藤原良宗に授与（神宮文庫本3・495）⇒1671

同　12・5
古今和歌集灌頂口伝・歌道之六義を中山宣親書写（天理図書館吉田文庫本81・29）⇐1503・⇒1653

1506（永正3）8・25～9・30
古聞を肖柏、真存法師に講釈、冬、加証奥書す（蓬左文庫本一華抄奥書）、10－、同聴友弘（宗訊）にも書写を許す（国会図書館本、尊経閣文庫本）⇐1503・⇒1511、1534、1536、1546、1857

1507（永正4）3・2
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕の内「内外口伝歌」を〔玄清〕、実隆より相伝（諸本）⇐1500

1508（永正5）10・20～11・25
古今私秘聞を猪苗代兼載、兼純に相伝、翌年、翌々年にかけて切紙等残らず相伝（正宗文庫本）⇒1535

1509（永正6）3・4
八雲神詠秘訣に「前博陸」〔一条冬良〕奥書（諸本）⇐1484・⇒1702、1727、1765

同　3－
古今和歌集隠名作者次第（尭智）成立（諸本）⇒1617、1658

同　8上旬
雑秘抄（陽明文庫本、顕注密勘〔抄出本〕を含む）を書写（細川高国本による）⇐1495・⇒1531

同　閏 8・10
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を〔一条冬良〕校訂（九州大学本、斯道文庫本、獅子園文庫本等）⇐ 1501・⇒ 1529

同　11・12
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を伊勢貞頼（宗五）書写（斯道文庫本 091・ト 162）⇐ 1501・⇒ 1658

1510（永正 7） 2・18
古今伝受書（早稲田大学本、伝授書）を三条西実隆書写

同　6 －
古今集作者付歌数を肖柏本で書写（東山御文庫本、静嘉堂文庫本）⇒ 1542

同　8・5
両度聞書仮名序を持明院基春書写（徳大寺実通本による）（宮内庁書陵部鷹司本、松平文庫本）⇐ 1497・⇒ 1851（鷹司本）

同　11・28
古今集切紙口伝条々〔宗祇流・内外口伝歌〕を近衛尚通書写（斯道文庫本〈尚通自筆〉）

1511（永正 8） 1・1 ～、古聞を肖柏、珠念に読む、道泉同聴（京都大学図書館津守本）⇒ 1512

同　2・11 ～ 9・15
古聞を近衛尚通書写（肖柏に一覧を免さる）（京都大学中院文庫本、東北大学本）⇐ 1482、1506・⇒ 1514、1532、1584、1638、1690（宗祇略抄）、1852（宗祇略抄）

1512（永正 9） 12・14 ～

古聞を肖柏、卜純に読む（京都大学図書館津守本）⇐1511・⇒1513

1513（永正10）5～6
古聞を肖柏一覧（京都大学図書館津守本）⇐1512・⇒1514

同　7・28
宗祇略抄一校（東山御文庫本）

1514（永正11）2・29～3・28
古聞を徳大寺公胤書写（東京大学国文学研究室本）⇐1511

同　5～9
古聞の音注を肖柏加筆（京都大学図書館津守本）⇐1513

1515（永正12）4－
三流抄を礼部尚書意雲書写（東山御文庫本）

同　11－
三条西家本聞書集成成立、〔三条西公条〕書写、実隆奥書（宮内庁書陵部本、東京大学国語研究室本）⇐1337

1516（永正13）5－
毘沙門堂本古今集注を宗識書写（京都大学本）

1517（永正14）10・23
古聞真名序を清原宣賢書写（実隆説による）（ノートルダム清心女子大学本、東海大学桃園文庫本26・70）⇒1602

同　10・23
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を清原宣賢書写（逍遥院＝実澄（ママ）説による）

（京都大学本 4 － 22・コ 3、初雁文庫本 12・171）⇐ 1500、1503・⇒ 1602

＊前項と関連し、合写か

1518（永正 15）

永正記を前年 7・25 ～ 8・24、泰昭、泰諶より伝受し、本年 4・18、成立（京都大学平松文庫本、神宮文庫本 3・509、同 3・528）⇒ 1520、1599、1674

同　8 －

古今作者読様清濁に近衛尚通奥書（東山御文庫本、蓬左文庫本）⇒ 1519、1554

同　9・1

両度聞書真名序を三条西公条書写（宮内庁書陵部本 509・39）⇐ 1472

1519（永正 16） 8・7

難波津泰諶聞書を泰昭書写（曼殊院本）⇐ 1491

同　10・21

古今作者読様清濁を「左幕」（徳大寺公胤か）書写（東山御文庫本、蓬左文庫本）⇐ 1518・⇒ 1568

1520（永正 17） 6・19

永正記を某、改訂書写（京都大学平松文庫本）⇐ 1518・⇒ 1615

1521（大永 1） 11 －

一条冬良注を持明院基春書写（東海大学桃園文庫本）⇒ 1533

1522（大永 2） 2 －

阿古根浦口伝（2）書写（宮内庁書陵部本 266・275、京都府立総合資料館本）⇒ 1594

1523（大永 3） 4・4
和歌一代次第灌頂書を宗允書写（東京大学国語研究室本）

同　10 －
素純聞書成立（諸本）

1524（大永 4） 10 －
延五記〔古今声句相伝聞書〕を兼俊、梁盛より相伝（駒沢大学本）

1525（大永 5） 10・20
和歌秘抄（梁盛・経厚）を某（経厚か）、梁盛より相伝（東海大学桃園文庫本）
⇒ 1527

1526（大永 6） 3・28
八雲神詠秘訣の切紙を清原宣賢、冷泉為和に授与（天理図書館吉田文庫本 81・257）⇒ 1763

同　5・13
両度聞書歌注を円深書写（神宮文庫本）⇐ 1498・⇒ 1576

1527（大永 7） 8・5
和歌秘抄（梁盛・経厚）を某、経厚より伝受（東海大学桃園文庫本）⇐ 1525

1528（大永 8） 2・19
両度聞書書写（三手文庫本）⇐ 1472

同（享禄 1）　8 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕に宣賢奥書（初雁文庫本 12・154、熊本大学永青文庫本）⇒ 1689

同　10 －

古今魚魯秘抄に「北園末僧」奥書（東山御文庫本）

1529（享禄 2） 2 －

一条冬良注を富小路資直書写（龍門文庫本）⇒ 1613

同　3・21

平松抄書写（京都大学平松文庫本）⇐ 1443・⇒ 1615

同　5・20

古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を三山西峰貫長（道増か）書写（九州大学本、獅子園文庫本）⇐ 1509・⇒ 1739

同　12・5 ～翌年 3・24

経厚講釈、尊鎮法親王聞書す（経厚注成立）（曼殊院本）

1530（享禄 3） 1・8

為忠序注を尊鎮法親王書写、経厚加証（東山御文庫本）

1531（享禄 4） 5 －

清輔本古今集目録を持明院基規書写（東山御文庫本）⇐ 1157

同　9・13

両度聞書を宗珀、宗把法師に書写を許す（肖柏本による）（尊経閣文庫本 13・26・大）⇐ 1472

同　9・29

雑秘抄（陽明文庫本、顕注密勘〔抄出本〕を含む）を尊俊書写⇐ 1509

1532（享禄 5） 3・14

両度聞書を「法印」書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐1498・⇒1602

同　10－
三秘抄を三条西公条書写（素経本による）（早稲田大学本）⇐1255
＊改元は7・29

同（天文1）
この年、古聞（尚通本）に田向重治奥書（内閣文庫本延五秘抄）⇐1511

1533（天文2）6・5
和歌灌頂抄書写（祐徳稲荷神社本）⇒1735

同　6下旬
古訓密勘注書写（熊本大学永青文庫本）

同　9－
一条冬良注を持明院基春、土岐五郎光－〔親？〕に与う（東海大学桃園文庫本）⇐1521

同　12中旬
古今和歌灌頂部〔奥義抄〕書写（宮内庁書陵部本）

1534（天文3）3・18
古聞を真存、麦生田入道道徴に相伝（蓬左文庫本一華抄所引奥書）⇐1506・⇒1566

1535（天文4）6中旬
了誉序注書写（東京大学国語研究室本）⇐1406・⇒1749

同　6・18

為忠序注を昭淳僧都書写、経厚加証（東山御文庫本）⇐1361・⇒1565

同　11中旬
古今私秘聞を猪苗代兼純書写（正宗文庫本）⇐1508

1536（天文5）4・3～5・23
古聞を宗訊、養松に講釈、6・18、聞書を授与（国会図書館蔵本）⇐1506・⇒1684～88（貞享年中）

同　8・8
古今和歌集灌頂口伝（玉伝深秘巻等合写）を帯刀左衛門尉長次書写（東北大学本）⇒1674

1537（天文6）7・4
弘安十年古今集歌注〔尊経閣文庫本〕を長意書写（尊経閣文庫本）⇐1496

1538（天文7）4・14
顕昭注（序注）を卜部兼右書写（帰雲院住僧正堅本による）（京都府立総合資料館本）⇐1282

1540（天文9）5・5
僻案抄に「卜部朝臣」（卜部兼右か）加証（中野幸一本〈川平ひとし論文による〉）⇐1478

同　8・8
阿古根浦口伝（2）を某大僧正書写（東山御文庫本）

同　10－
難波津泰謎聞書を昭淳書写（曼殊院本）⇐1491・⇒1548

1541（天文 10） 10・11

古今切紙廿三条を慶来書写（諸本）⇒1601、1713、1811

同　10・11

古今秘抄（三手文庫本、歌注〔中世〕）に奥書

1542（天文 11） 2 －

阿古根浦口伝（6）（保元二年清輔本古今集目録合写）奥書（国会図書館蔵本）⇐1157

同　4・23

古今集作者付歌数を宗訊書写（静嘉堂文庫本）⇐1510・⇒1718

1543（天文 12） 3・22

古今秘伝を木戸正吉書写か（あるいは相伝）（内閣文庫本）

同　10・7

八雲神詠秘訣を卜部兼右、揚憲に授与（天理図書館吉田文庫本 81・266）⇒1734

同　10 中旬

古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を〔一条房通〕書写（斯道文庫本 091・ト 21）

1544（天文 13） 3・7

三流抄を翁阿書写（東山御文庫本勅封 63・3・1・7）⇐1443

同　3・29

了誉序注書写（東海大学桃園文庫本 26・51）⇐1406

1546（天文 15） 2・8

古聞を宗訊、竹田治房に書写を許し、加証奥書す（尊経閣文庫本）⇐1506

同　3－

延五記書写（筑波大学本）⇒1732

同　8下旬

古今集聞書（大倉精神文化研究所本、両度聞書関連、冬良説）を一条兼冬書写

1547（天文16）12－

古今和歌集注〔国会本〕書写

1548（天文17）10・26

難波津泰謎聞書に外孫某伝領奥書を加える（昭淳書写本）（曼殊院本）⇐1540

1549（天文18）8・14

和歌灌頂次第秘密抄書写（叡山文庫本）

1552（天文21）2・25

古今集口決・徒然草大事（神宮文庫本、伝授書）を一条兼冬書写⇒1693

同　12・14

両度聞書仮名序を聖碩書写（京都大学中院文庫本Ⅵ53）⇐1504

1554（天文23）1・20

古今作者読様清濁を今出川晴季書写（蓬左文庫本）⇐1518

1555（天文24）3・3

顕注密勘〔顕注抄出本〕書写（斯道文庫本）

同　3・21

三流抄に年記（京都大学本4－23・コ8）⇒1733

同　5－
千金莫伝書写（久松国男本）

1558（弘治 4） 2－
古今三十五口決奥書（ノートルダム清心女子大学本）⇒1714

同（永禄 1）　閏 6・22
僻案抄（中御門宣胤筆本）に三条西公条加証（斯道文庫本 091・ト 290）⇐1478

同（永禄 1）　7 上旬
顕注密勘（中冊）に紹巴奥書（中央大学本、三手文庫版本校合本）⇐1494

1559（永禄 2） 9 中旬
為家序抄に三条西公条奥書（京都大学中院文庫本）⇐1264・⇒1673

1561（永禄 4） 2・18
古今栄雅抄奥書（版本等諸本）⇒1674、1689、1729

1565（永禄 8） 2－～翌年 4・15
延五記を校合（東山御文庫本勅封 62・11・1・5、同 63・1・2・9）⇐1492・⇒1588

同　3・11
古今秘密灌頂書写（京都大学中院文庫本）

同　8・23
為忠序注を吉田兼右書写（東山御文庫本）⇐1535

同　10・23
愚問賢答抄を紹巴書写（ノートルダム清心女子大学本）

1566（永禄 9） 閏 8・11

古聞を麦生田道徴、財部入道以貫に相伝（蓬左文庫本一華抄所引奥書）⇐ 1534・⇒ 1582

同　閏 8・16

和歌灌頂次第秘密抄を浄諫書写（岩瀬文庫本 110・113）

1567（永禄 10） 8・6

両度聞書真名序書写（東山御文庫本）

同　10 －

古今集血脈抄を孝甫書写（三条西家より伝受）（宮内庁書陵部本等諸本）⇐ 1492

＊前に書かれる延徳 4 尭恵奥書は延五記よりの転記（成立年代には関わらない）

1568（永禄 11） 2・22

古今作者読様清濁を「権大納言」〔今出川晴季〕書写（東山御文庫本）⇐ 1519

同　5・18

古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕に樺山玄佐奥書（珠玄より伝受）（広島大学本）

同　9・23

古今和歌灌頂巻を愛染院書写（斯道文庫本）⇐ 1323

1570（永禄 13）

この年、永禄切紙（東京大学史料編纂所本、伝授書）成立か

1573（天正 1） 8 －

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕に元如奥書（初雁文庫本 12・119、同 12・175）⇒ 1619

同　12 上旬
三流抄を書写（東山御文庫本）⇐ 1411

1574（天正 2） 3・7
伝心抄（草本）成る、1572（元亀 3）12・6 ～この年 3・7、三条西実枝より幽斎に講釈、細川幽斎筆三条西実枝加証奥書（天理図書館本）⇒ 1576

同　12・28
古今和歌集姫小松・二条冷泉飛鳥井三流口伝集成を祐友、某に書写を許す（天理図書館本）⇐ 1416

1576（天正 4） 4・20
両度聞書歌注を栄甚書写（神宮文庫本 3・496）⇐ 1526・⇒ 1580

同　10 －
伝心抄（幽斎清書本）に三条西実枝加証奥書（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐ 1574・⇒ 1602、1700

同　10・21
古今切紙口伝条々〔宗祇流・内外口伝歌〕を細川幽斎書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 116）⇐ 1500

1580（天正 8） 8・12 ～翌年 8・15
両度聞書を了円書写（神宮文庫本 3・496）⇐ 1497、1576

1581（天正 9） 5・1
阿古根浦口伝（1）を「野釈」書写（日本歌学大系本）⇐ 1420・⇒ 1852
＊日本歌学大系本に天正 9 とするは天正 20 の誤り、1592 参照

1582（天正 10） 12・1

古聞を財部入道以貫、財部入道宇〔宗〕佐に相伝（蓬左文庫本一華抄奥書）
⇐1566・⇒1614

1584（天正12）3・7
六巻抄（恋一まで）書写、以下も書写（清原国賢所持）（京都大学清家文庫本）
⇐1328

同　4・7
近衛尚通古今切紙を幽斎書写訂正（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇒1602

同　11・15
古聞を「前内大臣」（今出川晴季か）書写（京都大学中院文庫本Ⅵ69）⇐1511
＊『書目』で「前内大臣」を徳大寺公維としたのを改む

1585（天正13）4・12
古今和歌集聞書（斯道文庫本、古聞関連）を〔水無瀬兼成〕書写

1586（天正14）1・18
宗訊古今切紙に幽斎識語（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇒1602

同　3・25
延五記を紹巴、吟世より贈られ、識語（東山御文庫本勅封63・3・1・12、国立歴史民俗博物館本）

同　4・8
玉伝深秘巻書写（二条家本による）（名古屋大学本）⇐1427・⇒1690

同　4・27
天正十四年本古今和歌集注を主古諫（不詳）書写（斯道文庫本）⇒1661

同　9－
古今和歌集口伝（蓬左文庫本、伝授書）に五大院僧正快玄奥書

1588（天正16）11下旬
延五記〔序中秘伝切紙〕・古今二字相伝を権僧正秀信書写（宮内庁書陵部本、初雁文庫本等）⇐1492・⇒1705、1729、1737、1743

同　11・30
伝授抄（松永貞徳）付載の幽斎より相伝の一巻（三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄に当る）に年記あり（宮内庁書陵部本）⇒1646

同　11・30～12・3
延五記を僧正良辰書写（静嘉堂文庫本503・2・20203、東山御文庫本勅封62・11・1・5、同63・1・2・9）⇐1492、1565・⇒1589

同　12・30
為家抄〔弘安十年古今集歌注混入〕を幽斎書写（疑）（宮内庁書陵部本501・445）⇒1729（古今和歌集切紙伝授）
＊この年12・30なし

1589（天正17）1・25
延五記を法印亮〔良〕憲書写（静嘉堂文庫本503・2・20203、東山御文庫本勅封62・11・1・5、同63・1・2・9）⇐1588

1591（天正19）9・18
阿古根浦口伝を秀長書写（名古屋市立鶴舞図書館本）

同　12・16
古今集藤沢伝を他阿、其阿に授与（東海大学桃園文庫本、初雁文庫本）⇒1714、1737

1592（天正 20）5・1

阿古根浦口伝（1）を「野釈」書写（宮内庁書陵部鷹司本、彰考館文庫本等）⇐1420・⇒1852

＊日本歌学大系本（底本は鷹司本）に 1581 とするは誤り、1581 参照

同　12・21

灌頂唯授一子之大事に奥書（静嘉堂文庫本 518・18・22057、川上本）⇒1655、1692

＊川上本（『書目』未載）は 2 －、改元は 12・8

1594（文禄 3）1・27

古今集口訣書写（宮内庁書陵部本）⇐1376・⇒1718

＊九州大学本は 4・27

同　2 －

阿古根浦口伝（2）書写（宮内庁書陵部本 266・275、京都府立総合資料館本）⇐1522・⇒1853

＊文禄 3 奥書の次に寛 5・12・23 奥書あれど、寛永、寛文、寛政いずれか不明、いま次の嘉永 6 奥書につなぐ

同　春

古今和歌灌頂巻に今出川晴季奥書（内閣文庫本）⇐1323・⇒1659

同　4・27

古今集口訣書写（九州大学本）⇐1376・⇒1732

＊宮内庁書陵部本は 1・27

同　5 －

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を書写（右家々秘密切紙依懇望令書写畢…文禄三甲午年五月吉日宗祇法師自筆殊血判有之以本写之畢）（東海大学桃園文庫本 26・68 等諸

本）⇒1748、1756

同　5－
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を幽斎書写（右家々秘密切紙依懇望令書写畢…文禄三甲午歳五月　大蔵卿二位法印玄旨）（東海大学桃園文庫本26・88、稀）⇒1706
＊上記二項奥書のいずれかが改竄の疑いあり

同　7・11
僻案抄を三条西実条書写（早稲田大学本）⇐1487

1597（慶長2）8・4
為家抄〔弘安十年古今集歌注混入〕を三条西実条書写（偽奥書）（宮内庁書陵部鷹司本鷹387）⇐1263・⇒1729
＊1263（弘長3）為家抄奥書を改竄せるもの

1599（慶長4）閏3・29～4・1
永正記（仮名序）書写（神宮文庫本3・509）⇐1518・⇒1674

1600（慶長5）3・19～4・29
三条西家流聞書（当座聞書）を智仁親王書写（幽斎講義）、古今集幽斎講釈日数成る（宮内庁書陵部本古今伝受資料）

1601（慶長6）10・24
古今切紙廿三条を早川弥助書写（田山和泉守道吟本による）（カリフォルニア大学本）⇐1541・⇒1689

同　11・12
宗碩聞書（日野資輝書写か）に某加証奥書（宮内庁書陵部日野本）⇐1501

1602（慶長7）4・19

古今肖聞之内を智仁親王書写（幽斎本による）（宮内庁書陵部本古今伝受資料）

同　5・1
古今和歌集一部之清濁同口決条々を幽斎より佐方宗佐伝受（諸本）⇒1625、1629、1761、1856

同　6下旬
古聞真名序を幽斎書写（ノートルダム清心女子大学本、東海大学桃園文庫本26・70）⇐1517・⇒1811（古今切紙口伝条々〔宗祇流〕合写）

同　6下旬
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を幽斎書写（京都大学本4－22・コ3、初雁文庫本12・188）⇐1517・⇒1811、1865

同　8・14～15
宗訊古今切紙を智仁親王書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐1586

同　8・16
近衛尚通古今切紙を智仁親王書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐1584

同　8・17～18
伝心抄叙并真名序抄を智仁親王校合（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐1576

同　8・28
両度聞書を智仁親王書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料）⇐1532

同　11・2
三条西家流聞書（清書本）を智仁親王書写、幽斎加証（宮内庁書陵部本古今伝受資料）

同　12下旬
古今大事を祐心書写（肖柏自筆本を宗柳が書写した本による）（東北大学本）
⇐1474

1604（慶長9）8・10～閏8・11
慶長九年古聞書（幽斎講・実条記）成立（東海大学桃園文庫本）

1606（慶長11）11・4
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を幽斎、松永貞徳に授与（初雁文庫本12・182、天理図書館吉田文庫本81・262）⇒1649

1609（慶長14）9・2
古今伝授之式（熊本大学永青文庫本、伝授書）を素然書写（幽斎本による）
⇒1647

1613（慶長18）2・15
一条冬良注に西洞院時慶加証（富小路資直書写本）（龍門文庫本）⇐1529

同
この年、延五記書写（龍谷大学本）⇐1492

1614（慶長19）8・13
古今和歌集聞書（京都大学平松文庫本、伝授書）成る（上皇〔後陽成院〕より伝授）

同　8－
宗祇略抄に三条西実条奥書（斯道文庫本、龍門文庫本、彰考館文庫本）⇒1682

同　9・19
古聞を財部宗佐、如見に相伝（蓬左文庫本一華抄所引奥書）⇐1582・⇒1618

1615（慶長 20） 2・11

永正記に西洞院時慶奥書（京都大学平松文庫本）⇐ 1520

同　5・9

平松抄書写（京都大学平松文庫本）⇐ 1529

同　11 下旬～翌年 2・25

三秘抄を佐方宗佐書写（長岡中書本による）（東海大学桃園文庫本、神宮文庫本、宮内庁書陵部鷹司本）⇒ 1722、1738、1857

1617（元和 3） 2 －

古今集極秘（幽斎自筆本）に佐方宗佐奥書（天理図書館吉田文庫本 81・318、東山御文庫本）⇒ 1731

同　2 －

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を佐方宗佐書写（幽斎自筆本による）（天理図書館吉田文庫本 81・305）

同　8・16

古今集抄〔智仁親王切紙〕を智仁親王書写（宮内庁書陵部本古今伝受資料）

同　10 中旬

古今和歌集隠名作者次第書写（刈谷市立中央図書館本）⇐ 1509

1618（元和 4） 7 －

古聞を如見、切臨に相伝（蓬左文庫本一華抄所引奥書）、このころ一華抄（一華堂切臨）成立か⇐ 1614・⇒ 1619

同　11 －

頓阿序注書写（山口大学本）⇒ 1758

1619（元和 5）1 －

古聞に一華堂切臨加筆（慶應大学本ＪＬ２Ａ・1220）⇐ 1618・⇒ 1634

同　3・2

古今集童蒙抄を茅山人書写（群書類従本）⇐ 1476

同　3・15

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕に友松兵庫頭奥書（初雁文庫本 12・119、同 12・175）⇐ 1573・⇒ 1649

1620（元和 6）

この年、延五記〔序中秘伝切紙〕を中臣祐長書写（国立歴史民俗博物館本）

1621（元和 7）8・3

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を源兼視書写（龍谷大学本 911.204・40）⇒ 1646

1622（元和 8）8・13

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授（片桐洋一本「光広伝古今三鳥三木記」〈片桐教授伝授書解題による〉）に烏丸光広奥書⇒ 1805

1624（寛永 1）

この年、古訓密勘注を中臣祐長書写（東大寺本）⇒ 1732

1625（寛永 2）8 －

古今和歌集一部之清濁同口決条々を佐方宗佐書写（熊本大学永青文庫本等諸本）⇐ 1602・⇒ 1775

同　10・12

顕注密勘書写（宮内庁書陵部本 266・20）⇐ 1221

1627（寛永 4） 8・「末一日」（21 ？、29 ？）
古今八柏六鳥大事を阿円書写（立命館大学本）

同　11・25
良恕親王注〔冷泉末流〕を良恕親王、藤谷為賢より相伝、奥書す（曼殊院本）

1628（寛永 5） 12 上旬
勧修寺本古今和歌集注書写（九州大学本）⇐ 1476・⇒ 1811
＊『書目』に宝永 5 とするは誤り

1629（寛永 6） 2・10
古今集極秘を智仁親王書写（佐方宗佐所持幽斎筆本による）（宮内庁書陵部本古今伝受資料）

同　2・12
古今和歌集一部之清濁同口決条々を智仁親王令写（幽斎本による）（国立歴史民俗博物館本）⇐ 1602

1631（寛永 8） 3 下旬
古今集童蒙抄書写校合（京都大学中院文庫本Ⅵ 47、三手文庫本、山口県立山口図書館本等）⇐ 1476

1632（寛永 9） 3・10
為明抄を志水永翁葉雪書写、田丸西信に与える（京都大学中院文庫本Ⅵ 44、同Ⅵ 101）⇒ 1706

同　7 －
古今持為注書写（宮内庁書陵部本 266・15）⇐ 1477

1633（寛永 10） 3 －

古訓密勘注を祥景書写（名古屋大学本）

同　8・28
古今文字読聞書（阿野実顕）開始（宮内庁書陵部本）

1634（寛永 11） 5・5 ～ 19
古今聞書第 1 冊成立（京都大学平松文庫本、全注〔中世〕）
＊『書目』で成立を〔中世〕とするは誤り

同　閏 7・11
古聞を一華堂切臨書写校合（慶應大学本ＪＬ２Ａ・1220）⇐ 1619・⇒ 1652

同　10 下旬
毘沙門堂本古今集注に古筆了佐極めを付す（尊経閣文庫本）

1636（寛永 13） 2 －
三秘抄を細川忠興書写、京極忠高に与える（宮城県図書館本、岡山大学本）
⇒ 1728

1638（寛永 15） 3 －
古聞を佐野紹益書写（園部町小出文庫本）⇐ 1511

同　6 中旬
古今集童蒙抄を清水宗川書写（静嘉堂文庫本、筑波大学本）⇐ 1476

同　8 －
両度聞書刊行（京　風月宗智）⇒ 1659

同　9・3
弘安十年古今集歌注に年記（初雁文庫本 12・209）⇐ 1287・⇒ 1652

1640（寛永 17）3 中旬

顕昭注書写（細川殿所持本による）（宮内庁書陵部本 266・122）⇐ 1282

同　5・7

顕注密勘書写（杵築市立図書館本）

同　8 ～ 9 －

伝授抄（松永貞徳）の講義行わる、蝙翁（和田以悦）聞書、10・12、竟宴行わる（宮内庁書陵部本、初雁文庫本）⇒ 1646

1641（寛永 18）5・10

顕注密勘（上冊）書写（京都大学本 4 － 23・コ 51）⇐ 1406

1644（正保 1）10 上旬

延五記〔古今声句相伝聞書〕書写（中院通村本による）（宮内庁書陵部本 266・377、九州大学本）⇐ 1494・⇒ 1670、1682

＊改元は 12・16

1646（正保 3）夏

貞徳、幽斎より相伝の一巻（三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄に当る）を伝授、後、蝙翁（和田以悦）伝授抄にこれを加えて書写（宮内庁書陵部本、初雁文庫本）⇐ 1588、1640・⇒ 1733、1751、1758

同　7 下旬

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を主膳正孝忠書写（源定直所持本による）（龍谷大学本 911.204・40）⇐ 1621・⇒ 1741

1647（正保 4）3 －

古今伝授之式（熊本大学永青文庫本、伝授書）を一楽軒栄治書写（中院通村本による）⇐ 1609・⇒ 1678

1649（慶安 2） 3・18

八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を松永貞徳、望月長孝に授与（初雁文庫本 12・182、天理図書館吉田文庫本 81・262）⇐ 1606・⇒ 1676

同　5 －

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕に藤原高滋奥書（初雁文庫本 12・119、同 12・175）⇐ 1619・⇒ 1685（古今伝書）、1689

1652（慶安 5） 9・21

弘安十年古今集歌注書写（初雁文庫本 12・209）⇐ 1638

＊改元は 9・18

同（承応 1）　11・15

古聞を方円良水書写（慶應大学本ＪＬ２Ａ・1220）⇐ 1634

同　11・25

古今集寛文記（一華堂切臨）・古今題号口伝（合写）を切臨書写（遊行寺本）

＊蓬左文庫本 129・61・47 は古今題号口伝のみ

同　12 －

承応元年一華堂切臨抄成立（遊行寺本、蓬左文庫本）

1653（承応 2） 2・13

古今和歌集灌頂口伝・歌道之六義を松永貞徳、藤本七郎右衛門に授与（幽斎相承）（天理図書館吉田文庫本 81・29）⇐ 1505

1654（承応 3） 8 上旬

頓阿序注を永井尚政書写（京都大学平松文庫本）

1655（明暦 1） 10 －

灌頂唯授一子之大事を某相伝し書写（静嘉堂文庫本 518・18・22057）⇐ 1592・⇒ 1658

同　12・3
灌頂唯授一子之大事を言聴、定清に授与（天理図書館吉田文庫本 81・307）

1656（明暦 2） 4・4
古今和歌灌頂巻・古今切紙口伝条々〔宗祇流〕書写（片桐洋一本〈片桐伝授書解題による〉）⇒ 1668

1657（明暦 3） 1・23 ～ 2・21
後水尾院御抄の講義および切紙行わる、〔道晃法親王〕聞書（東山御文庫本勅封 62・9・1・2）、飛鳥井雅章聞書（国会図書館本）

同　3・11
古今和歌集灌頂口伝書写（ノートルダム清心女子大学本黒Ｂ 20）

同　5 －
古今和歌灌頂巻に識語（神宮文庫本 3・323）⇐ 1381

同　7 上旬
顕注密勘刊行（京　和泉掾林時元）⇐ 1280・⇒ 1685、1702

1658（明暦 4） 1 －
了誉序注刊行（〔京〕村上勘兵衛）⇐ 1406

同　4・18
灌頂唯授一子之大事を某に相伝し奥書（静嘉堂文庫本 518・18・22057）⇐ 1655・⇒ 1728

同（万治 1） 8・28
僻案抄を道晃法親王書写（定家真跡本臨写）（東山御文庫本勅封 182・7・5）

同 9 −
古今和歌集隠名作者次第刊行（京 小嶋弥左衛門、後印は京 武村新兵衛）
⇐ 1509

同 10・18
延五記〔古今声句相伝聞書〕を沙門融禅（孝禅とも）書写（石清水八幡森元友久本による）（岡山大学本、宮内庁書陵部本鷹 333）⇐ 1487

同 11 −
古今無名作者抄を山本春正、某に書写を許す（神宮文庫本、宮内庁書陵部本）
⇒ 1718

同 閏 12・2
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕書写（斯道文庫本 091・ト 162）⇐ 1509

1659（万治 2） 3・11
古今和歌灌頂巻を源仲孝書写（内閣文庫本）⇐ 1594

同 9 −
両度聞書再印（京 吉野屋権兵衛）⇐ 1638・⇒ 1709

1660（万治 3） 5 −
首書古今和歌集刊行（〔京〕本屋七兵衛、後印は〔京〕谷岡七左衛門）

同 6・16
大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕を惣社宮内少輔より長谷川重全へ相伝（一無軒道冶に相伝とするものあり）（宮内庁書陵部本鷹 250、初雁文庫本 12・159）

⇐1297、1504

同　6・16
古今和歌灌頂巻を惣社宮内少輔自宗より長谷川重全へ相伝（宮内庁書陵部本 266・243）⇐1504・⇒1704
＊前項と関連か、合写の場合あり

同　6・16
玉伝深秘巻（合写）を惣社宮内少輔自宗より長谷川重全へ相伝（宮内庁書陵部本鷹503）⇒1854

1661（寛文 1）
この年、天正十四年本古今和歌集注に宗長抄等書入（斯道文庫本）⇐1586

1662（寛文 2） 12・8
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を従高、某に授く（東山御文庫勅封 63・2・1・4）

1663（寛文 3） 3・2
古今集童蒙抄を茅山人書写（群書類従本）⇐1476

同　7－
僻案抄を何待菴知足書写（東山御文庫本勅封 63・3・1・18）⇐1391

同　8・3
大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕書写（天理図書館吉田文庫本 81・31）⇐1297

1664（寛文 4） 5・12～18
後水尾院御抄の講義および切紙行わる、中院通茂聞書（京都大学中院文庫Ⅵ 56、同Ⅵ 68、Ⅵ 26 等）、後西天皇聞書（東山御文庫勅封 62・11・1・1・3、同 62・11・

1・1・5)、道晃法親王聞書（河野美術館本)、さらに古今集聞書留（日野弘資）成る（宮内庁書陵部本 265・1067、同 265・1084）⇒ 1745

1665（寛文 5） 12 中旬

僻案抄書写（斯道文庫本 091・ト 160）⇐ 1490

1666（寛文 6） 6 上旬

古秘抄（東山御文庫本勅封 62・11・2・6、伝授書）を烏丸資慶、綸命により書写

同　8・26

玉伝深秘巻（合写）を葛岡宣慶、河瀬菅雄に相伝（宮内庁書陵部本 266・289）⇒ 1689

1667（寛文 7）

一昨寛文 5 年 12・17 ～本年 12 上旬、両度聞書を荒木田経晃書写（神宮文庫本 3・530）⇐ 1472

1668（寛文 8） 3 下旬

古今和歌灌頂巻・古今切紙口伝条々〔宗祇流〕書写（片桐洋一本〈片桐所蔵伝授書解題による〉）⇐ 1656

同　10・1

古今伝授切紙御写（東山御文庫本勅封 62・8・2・8・1、伝授書）書写（日野弘資本による）

1669（寛文 9） 5 中旬

古今十巻之切紙（初雁文庫本 12・179、伝授書）を深誉書写⇒ 1701

同　10 下旬

古今伊勢物語切紙を花井重実、寺内宇右衛門に相伝（初雁文庫本 12・157、河野美

術館本）⇒1699、1720

1670（寛文 10）4・22
古今序註（山岸徳平本、伝授書）書写

同　10 中旬
延五記〔古今声句相伝聞書〕を清水宗川書写（九州大学本）⇐1644・⇒1683

1671（寛文 11）5 下旬
為重注書写（東海大学桃園文庫本 26・19）⇐1370

同　7・18
古今集童蒙抄を津守国治書写（京都大学本 4 － 23・コ 50）⇐1476

同　12・9
古今集童蒙抄〔古今集釈義〕を高向光屋書写校合（尭恵、一楽軒栄治、祐海法印を経る）（神宮文庫本 3・495）⇐1505

1672（寛文 12）6・7 ～ 27
顕注密勘を後西院一校（宮内庁書陵部本 501・672）⇐1454

1673（寛文 13）8・5
為家序抄を中院通茂書写（京都大学中院文庫本）⇐1559

1674（延宝 2）1 －
古今栄雅抄刊行（〔京〕荒川宗長、後印は京　植村藤右衛門等および無刊記）⇐1561

同　11 －
古今和歌集灌頂口伝（合写）を如松子（福住道祐）書写（東北大学狩野文庫本）

⇐1536

同　11 －
永正記を祐海法印、豊宮崎文庫に奉納（神宮文庫本3・509、同3・528）⇐1518、1599

1675（延宝3）4中旬
頓阿注書写（片桐洋一本〈片桐著書による〉）

同　11・5
古今和歌集灌頂口伝・玉伝深秘巻（金玉双義）書写（初雁文庫本12・163）⇐1431・⇒1689

1676（延宝4）6 －
以春本古今和歌集注を宗久、今井氏へ与う（初雁文庫本12・148）

同　8上旬
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を夢鷗、山本幸元に相伝（三重県立図書館本）⇐1471

同　8・20
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を望月長孝、平間長雅に附属せしむ（初雁文庫本12・182、天理図書館吉田文庫本81・262）⇐1649・⇒1702、1705、1706、1718

1677（延宝5）4・1
為重注を田村宗永書写（龍門文庫本）⇐1370

1678（延宝6）1 －
古今伝授之式（熊本大学永青文庫本、伝授書）を青木丹仍書写⇐1647

同　10・15 ～翌延宝 7
古今仰恋（望月長孝）の講義行わる（国会図書館本、京都大学本）⇒ 1702

1680（延宝 8） 8・22 ～ 12・10
古今和歌集講義（木瀬三之）行わる、田中常矩聞書、12・12、竟宴（京都大学本）

1681（延宝 9） 3・18
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々に平間長雅奥書（東海大学桃園文庫本 26・74、初雁文庫本 12・168、宮内庁書陵部本 266・305 等諸本）⇒ 1709
＊ 2・18 とある本はおそらく誤り

同　3・18
古今天真独朗巻に平間長雅奥書（東海大学桃園文庫本 26・75、初雁文庫本 12・151 等諸本）⇒ 1709

同　5 －
松永貞徳古今秘説（金沢市立図書館稼堂文庫本「諸家口授附録」091.8・359 中にあり、伝授書）を貞徳門人忠知、北村乾庵に伝授⇒ 1715

同　6・18
僻案抄を冷泉為綱書写（内閣文庫本 202・119 校合奥書）⇐ 1380・⇒ 1731

同　6 下旬
頓阿抄書写（ノートルダム清心女子大学本）

同（天和 1）　8・11
小幡正信注に小幡正信が某より秘伝を受けた旨、記述あり（岡山大学本）⇒ 1704
＊その前に康永 1 に二条摂政（良基？）が聖護院御門主に伝授の旨奥書あれど存疑、改元は 9・29

1682（天和 2）3・1

古今和歌灌頂巻を細川行孝、花房右近に伝授（初雁文庫本 12・160）⇒ 1691

同　10 上旬

延五記〔古今声句相伝聞書〕書写（宮内庁書陵部本 206・718）⇐ 1644

同

この年、宗祇略抄を彰考館書写（林白水本による）（彰考館文庫本）⇐ 1614

1683（天和 3）1 －

延五記〔古今声句相伝聞書〕を下河辺長流書写（天理図書館本 911.23・イ 101）

同　5・13

明疑抄を近衛基熙書写（後西院御本による）（陽明文庫本）⇐ 1490

同　5・25

古今集極秘を俣野景長、須磨露水に伝授（龍谷大学本 911.1351・24、早稲田大学伊地知鐵男文庫本 319「古今伝授書」の内）⇒ 1769、1773（古今伝授書）

同　5 －

灌頂唯授一子之大事を宗明、某僧に相伝（京都大学本、静嘉堂文庫本 82・16・15044）

同　6・1

文亀二年宗祇注を津田某書写（初雁文庫本）⇐ 1502・⇒ 1797

同　8・28

古今伊勢物語切紙書写（宮内庁書陵部本 210・696、八戸市立図書館本）⇒ 1684

同　9・13

和歌灌頂次第秘密抄を正春書写（蓬左文庫本）

同　9下旬
延五記〔古今声句相伝聞書〕書写（宗川本による）（九州大学本）⇐1670・⇒1684

同　11・14
大江広貞注に感得識語（〔木下順庵〕を介す）（尊経閣文庫本）⇐1297

1684（貞享1）3・30
延五記〔古今声句相伝聞書〕を原安適書写（九州大学本）⇐1683

同　6－
古今伊勢物語切紙書写（宮内庁書陵部本210・696、八戸市立図書館本）⇐1683・⇒1713、1754

同　9・24
三流抄を「横存愚子」、「橋菅公子」に書写相伝（宮内庁書陵部本266・463）

同　10－
古今和歌集灌頂口伝書写（沢庵和尚真筆本による）（京都府立総合資料館本）

1684～88（貞享年中）6・29
古聞（序注）を多田儉閑、赤沢吉将に相伝（八戸市立図書館本）⇐1536・⇒1719

1685（貞享2）4・14
両度聞書を中院通茂書写し奥書す（前田綱紀本〈三条西公条筆本〉及び烏丸資慶本による）、この時、通茂、綱紀本の欠巻部を補写し、綱紀に奉る（尊経閣文庫本13・16・書、京都大学中院文庫本Ⅵ66）

同　4・25

顕注密勘（版本転写）に原安適校合（正広本による）（筑波大学本）⇐1657・⇒1766

同　6下旬
古今伝書（東京大学国語研究室本、延五記〔序中秘伝切紙〕、古今切紙口伝条々〔宗祇流〕をふくむ）に源長生奥書⇐1649

1686（貞享3）2・5
古今集序抄（北村季吟）成立（香川県歴史博物館本）

同　3・25
八雲神詠秘訣（合写）を木瀬三之、宮川松堅に授与（弘前市立図書館本）⇒1735

同　8・2
親房注を中院通茂が烏丸資慶所持本により書写（京都大学中院文庫本Ⅵ45）⇐1485

1687（貞享4）2・11
古今涇渭抄書写（西三条殿本による）（京都大学本）

同　8－
十口抄を某、書肆佐々木平右衛門本により書写、高向光屋本、秋田宗実本で校合（京都大学本、大阪府立中之島図書館「古今集諸抄」本）

同　8下旬
古今涇渭抄書写（谷山茂本〈片桐洋一著書による〉）⇐1493

1688（貞享5）春
顕昭注（顕注密勘混入本）を彰考館において書写校合（塙宗悦本、身延山蔵本による）（彰考館本巳2・6790～6793）⇐1282・⇒1698

同（元禄 1） 4 －

三流抄に也足叟識語（九州大学本）

＊『書目』で「也足叟」を中院通勝とするは誤り、改元は 9・30

1689（元禄 2） 4・13

古今切紙廿三条を豊嶋貞知書写（カリフォルニア大学本）⇐ 1601・⇒ 1744

同 5 下旬

古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を平野（清原）政国書写（熊本大学永青文庫本 8・2・110、初雁文庫本 12・154）⇐ 1528・⇒ 1704、1734、1762

＊ 1697 の本とは別本と考える

同 6 －

古今和歌集灌頂口伝・玉伝深秘巻（金玉双義）書写（初雁文庫本 12・163）⇐ 1675

同 9・14

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を高暢書写（初雁文庫本 12・119）⇐ 1649

同 9 －

玉伝深秘巻（合写）を河瀬菅雄、恵藤一雄に相伝（宮内庁書陵部本 266・289）⇐ 1666・⇒ 1699

1690（元禄 3） 1 －

古今和歌集序注（国会図書館本 847・15、三流抄関連）を一茅子書写（建部氏本による）

同 3 －

古今集秘伝叢書（ノートルダム清心女子大学本黒・F 20、伝授書）に吉田定親識語⇒ 1715

同　7下旬
宗祇略抄（実は巻十三以下古聞）を〔北条氏朝〕書写せしむ（前年2・6より書写校合）（宮内庁書陵部本210・710、大阪府立中之島図書館古今集諸抄本）⇐1511

同　9・11
玉伝深秘巻を某、伴資恒に書写せしむ（名古屋大学本）⇐1586・⇒1713

同　9－
古今栄雅抄仮名序を適子書写（河野美術館本）⇐1561

同　11・21
古今和歌集六種の秘事（国会図書館本141・61、伝授書）を日置紅梅軒霊山、岡本勝悦に授与

1691（元禄4）3－
古今和歌灌頂巻を花房右近、坂本胤重に伝授（初雁文庫本12・160）⇐1682

同　7・11
大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕を冷泉為綱、阿仏真蹟と加証（国会図書館本）⇐1297・⇒1728

同　8・22
古今余材抄（契沖）草稿本成る（河島又生本）

1692（元禄5）5・22
和歌極秘口授（天理図書館本911.2・803、伝授書）を霧山軒露川書写（季吟相承）⇒1731

同　8・4
灌頂唯授一子之大事を書写（川上本）⇐1592

＊『書目』未載

同　8・25
古今余材抄（契沖）成る（諸本）⇒1754、1793、1810、1835

同　9上旬
古今和歌集講本（序注）に貞澄識語（川上本）

1693（元禄6）1・22
教端抄（北村季吟）の執筆に湖春着手（日本大学本）⇒1701

同　8－
頓阿序注を某、暁月軒に伝授（斎藤報恩会本）⇒1704

同　12－
古今集口決・徒然草大事（神宮文庫本、伝授書）を宇都宮遯庵等、高雄尊朝より伝受⇐1552・⇒1788

1694（元禄7）8・29
八雲神詠秘訣（切紙）を橘三喜、橘一光に授与（天理図書館吉田文庫本81・269）⇒1747

同　11・18
古今和歌集講義（三好好清作木瀬三之聞書、序注のみ）を春水書写（宮内庁書陵部本266・427）⇒1854

1695（元禄8）5－
八雲神詠秘訣を戸田茂睡、山崎光隆に相伝（飯田市中央図書館本）⇒1759

1696（元禄9）

前年より当年にかけて〔古今集新抄〕（京都大学中院文庫本Ⅵ 43、同Ⅵ 70、両度聞書関連）を中院通茂作成

同　1 －
古今和歌集灌頂口伝（西川嘉長増補本）に年記あり（ノートルダム清心女子大学本黒・E 99）

1697（元禄 10） 2・5
為家抄（序注、合写）を小嶌宗報書写（熊本大学永青文庫本）⇐ 1263

同　閏 2・15 ～ 7・7
教端抄（北村季吟）を季吟、湖春の没後書き継ぎ完成、ついで 9・5 ～翌元禄 11・7・7、清書（川上本）⇒ 1699

同　8・23
古今集誹諧歌解（各務支考）成る⇒ 1782

同　8 －
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を平野（清原）政国書写（戸川主膳本による）（東海大学桃園文庫本 26・80、宮内庁書陵部本鷹 492）⇒ 1723、1733、1812
＊ 1689 の本とは別本と考える、この奥書の本を『書目』で「古今切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕」としたのを、単に「古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕」に改める

1698（元禄 11） 6・26
古今余材抄を興徳密寺憲意書写、契沖に校せしむ（早稲田大学本ヘ 4・289）⇒ 1728
＊『書目』未載

同　夏～秋

顕昭注（顕注密勘混入本）を彰考館において書写校合、混入部分を里村昌億本により差替え（彰考館本巳2・6790～6794）⇐1688・⇒1831

1699（元禄12）2－

玉伝深秘巻（合写）を恵藤一雄、某に伝授（宮内庁書陵部本266・289）⇐1689・⇒1857

同　4－

烏丸光広古今聞書を松渓書写（宮城県図書館本）⇐1481

同　10・5

古今伊勢物語切紙を佐々木貞続書写し、黒川伊兵衛に与う（川上本）⇐1669・⇒1705

＊『書目』未載

同　冬

玉伝深秘巻を小野沢助之進（彰考館）書写（花山院定誠本による）（彰考館本）

同　冬

親房注を小野沢助之進（彰考館）書写（花山院定誠本による）（彰考館本巳2・6813～6814）⇐1425

同　冬

灌頂唯授一子之大事を小野沢助之進（彰考館）書写（花山院定誠本による）（彰考館本）

同　12・12

教端抄真名序を季吟書写、12・21、一校（初雁文庫本）

同　12・29

教端抄（北村季吟）を季吟、五丸様（お伝の方）に奉る（川上本）⇐1697・⇒1701

1700（元禄13）3・15
伝心抄抜書を中院通茂作成（道晃法親王本より三条西実枝本にない部分を抄出）（京都大学中院文庫本Ⅵ112）⇐1576

同　6中旬
古今六鳥八柏大事を一空快岸書写（御室宝庫本による）（初雁文庫本）

同　7・4
明疑抄を中院通茂書写（後西院御本による）、この日奥書す（京都大学中院文庫本）⇐1490

1701（元禄14）2・5
八雲神詠相伝之覚書（天理図書館吉田文庫本81・259、八雲神詠秘訣関連）を書写（八十瀬先生本による）、ついで11上旬、それにより横部忠名書写校合⇒1761

同　2－～翌元禄15・1・15
教端抄（北村季吟）を季吟書写せしむ、ついで11・18、柳沢吉保に与える（日本大学本）⇐1693

同　3・24
為家抄書写（聖護院宮本による）（川上本）⇐1263・⇒1707
＊『書目』未載

同　春
古今之序抄（花房右近）に年記あり（川上本）

同　5－

和歌極秘伝抄刊行（〔京〕教来寺弥兵衛）

同　7・21
教端抄仮名序を季吟書写、ついで7・29、真名序書写（川上本）⇐1699

同　9－
一条家古今集注釈書集成を小野沢助之進（彰考館）書写（彰考館本）

同　10・21
古今十巻之切紙（初雁文庫本12・179、伝授書）を秦（小林）吉泰、世木次郎右衛門（不断斎）に伝受せしむ⇐1669・⇒1781

1702（元禄15）1－
顕注密勘再印（京　出雲寺和泉掾）⇐1657・⇒1722

同　5－
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を盈緗堂元知（水田長隣）、北鶯見正忠に付与（天理図書館吉田文庫本81・262）⇐1676・⇒1737、1783

同　5－
八雲神詠秘訣を盈緗堂元知（水田長隣）、北鶯見正忠に付与（ノートルダム清心女子大学本）⇐1509・⇒1745

同　5－
続和歌極秘伝抄刊行（京　教来寺弥兵衛等）

同　7－
歌の奥義（佐賀県立図書館本鍋991・1903、伝授書）相伝⇒1823

同

この年、古今仰恋書写（国会図書館本）⇐1678

1704（元禄17）2－～宝永1・8－
伝授五巻書（宮内庁書陵部本266・320、阿古根浦口伝（4）をふくむ）を恵藤一雄、板倉頼故に授く（河瀬菅雄等より伝授）

同（宝永1）4－
大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕を木鐸道人宗運書写（宮内庁書陵部本266・243）⇐1660
＊「古今灌頂巻」と合写か

同　5－
頓阿序注を平（萱場）重章、平盛信より伝授さる（斎藤報恩会本）⇐1693

同　7・10
古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を某僧授与さる（熊本大学永青文庫本8・2・110）⇐1689・⇒1737

同　7・10～翌宝永2
古今集聞書（〔中院通茂〕講）（京都大学中院文庫本Ⅵ33、全注〔近世〕）を〔中院通躬〕聞書す

同　8・3
小幡正信注に正信が某に相伝の奥書あり（岡山大学本）⇐1681・⇒1762

1705（宝永2）7・17
三箇秘授を某授与（東海大学桃園文庫本25・74「和歌秘事」）⇒1729
＊『書目』未載

同　7・24

古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕に梓山隠士尹躬奥書（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題〉による）⇒1738

同　7・30
古今集抄〔智仁親王切紙〕を野宮定基書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 135）

同　8 －
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を平間長雅、戸塚長如に付与せしむ（初雁文庫本 12・182）⇐1676・⇒1735

同　9 中旬
古今和歌集大事秘密口伝抄（宮内庁書陵部本 266・417、古今和歌灌頂巻・両度聞書）を相伝⇒1867

同　9・17
古今伊勢物語切紙を某、糸白本によって書写す（川上本）⇐1699

同　10・20
伝心集を野宮定基書写（中院通村筆本による）（京都大学中院文庫本Ⅵ 108）

同　11 －
古今二字相伝・延五記〔序中秘伝切紙〕（合写）を某、水田正秀より与えらる（初雁文庫本 12・150）⇐1588・⇒1751
＊『書目』の備考「寛永二」は「宝永二」の誤り

同　12 －
古今廿帖之内甚秘口訣切紙伝受を靡風軒貞隆、角谷正雅に授与す（松永友貞伝来）（国会図書館本、初雁文庫本）⇒1769

1706（宝永 3） 3・15

古今和歌集切紙之伝（東京大学国文学研究室本三浦 26、伝授書）を小幡正信相伝

同　4 上旬
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を平間長雅、高屋近文に付与せしむ（石川県立図書館本、九州大学本）⇐ 1676・⇒ 1751

同　4 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕に平間長雅奥書（東海大学桃園文庫本 26・88）⇐ 1594（右家之秘密切紙依懇望令書写畢…文禄三甲午歳五月　大蔵卿二位法印玄旨）・⇒ 1784

同　4 －～ 5 －
両度聞書を某抄出（飯田市立図書館本）

同　7 －
顕昭注（顕注密勘混入本）を今井似閑書写校合（三手文庫本）⇐ 1282

同　8・27 ～ 12・9
為明抄を野宮定基書写（京都大学中院文庫本Ⅵ 44）⇐ 1632

同　9・13
古今和歌集聞書（中院通茂講）（京都大学中院文庫本Ⅵ 67、両度聞書関連）に通茂奥書

1707（宝永 4） 7・7
古今序聞書（八戸市立図書館本南 15・397、古今切紙廿三条・古今伊勢物語切紙と合写）（中野等和著、坂師本による）書写⇒ 1747

同　12・3
為家抄に東白堂識語（川上本）⇐ 1701

1708（宝永 5） 9・15

親房注を藤原嘉忠書写（宮内庁書陵部本鷹 508）⇐ 1425・⇒ 1709

1709（宝永 6） 4・3 ～ 21

親房注を専宗校合（宮内庁書陵部本鷹 508）⇐ 1708・⇒ 1778

同　7 －

伝授抄（松永貞徳）別記書写（初雁文庫本）⇒ 1750

同　9 －

両度聞書三印（京　吉野屋権兵衛）⇐ 1659・⇒ 1758

同　10 －

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を平間長雅、北鷲見廸知に付与（初雁文庫本 12・168、堺市立中央図書館本、東海大学桃園文庫本 26・88）⇐ 1681・⇒ 1722、1728

同　10 －

古今天真独朗巻を平間長雅、北鷲見廸知に付与（神宮文庫本 3・511、同 3・512、筑波大学本、大阪市立大学本）⇐ 1681・⇒ 1737、1739、1744

1711（宝永 8）

この年、古今和歌灌頂巻に奥書（川上本）⇐ 1323・⇒ 1745

1713（正徳 3） 春

玉伝深秘巻を狛久忠書写（名古屋大学本）⇐ 1690

同　8 －

古今切紙廿三条を倭高書写（京都大学本）⇐ 1541

同　12・28

古今伊勢物語切紙を北条氏朝書写（宮内庁書陵部本 210・696）⇐ 1684

同　12 －
古今集三鳥記録（古今三十五口決に合写、東北大学本狩 4・10337）を田村当徳書写⇒ 1729

1714（正徳 4） 1・1
古今和歌灌頂巻を〔北条氏朝〕書写（宮内庁書陵部本 210・708）

同　1・13 ～翌正徳 5・4 －
古今和歌集見聞記（〔申斎〕隆徳）成る（宮内庁書陵部本）

同　1 －
古今三十五口決を田村当徳書写（東北大学本狩 4・10337）⇐ 1558・⇒ 1729

同　5・4 ～ 28
古今集講義、霊元院より武者小路実蔭に行わる、中院通躬陪聴（古今集御講案、東山御文庫本勅封 63・4・2・1、後水尾院御抄関連および京都大学中院文庫本Ⅵ 36、古今集講談座割〔正徳四年〕）

同　6 －
三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕に一時軒外鶏翁識語（ノートルダム清心女子大学本）⇒ 1822、1858

同　10・15
古今集藤沢伝（和歌灌頂秘密次第抄合写）を荷田信盛、某に相伝（初雁文庫本 12・200）⇐ 1591

1715（正徳 5） 10 －
古今集秘伝叢書（ノートルダム清心女子大学本黒・Ｆ 20、伝授書）に多節斎大江

素敬識語⇐ 1690

同　12 －
松永貞徳古今秘説（金沢市立図書館稼堂文庫本「諸家口授附録」091.8・359 中にあり、伝授書）を北村貞繁受く⇐ 1681・⇒ 1752

1716（享保 1） 10 －
三鳥伝（川上本、伝授書）を梅岡花郎書写

1718（享保 3） 1・18
古今集口訣を三好長堅書写（宮内庁書陵部本 266・442）⇐ 1594

同　2・23
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を三好長堅書写（宮内庁書陵部本 266・442）

同　2 －
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を有賀長伯、坪田繁員に付与（太宰府天満宮本）⇐ 1676・⇒ 1834

同　5 －
古今無名作者抄（山本春正）を松木淡々書写（宮内庁書陵部本）⇐ 1658

同　10 下旬
古今集作者付歌数を宗訊自筆本により望月百里書写（静嘉堂文庫本）⇐ 1542・⇒ 1722

同　11 上旬
古今習伊勢物語之口伝（高知県立図書館本、伝授書）に馬場信完識語⇒ 1842

1719（享保 4） 2 －

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を紀海音、規むら某に相伝（川上本）

＊『書目』未載

同

この年、古聞（序注）を堀江道高、中野正英に相伝（八戸市立図書館本）⇐1684～88・⇒1731

1720（享保5）1・11

古今伊勢物語切紙を野呂機角書写（佐々木松滴に免さる）（初雁文庫本12・157、河野美術館本）⇐1669・⇒1846、1863

＊河野美術館本は2・11

同　2－

三木秘訣（玉木正英）に正英識語（筑波大学本）

同　9－

八雲神詠秘訣（切紙）を吉田兼敬書写（天理図書館吉田文庫本81・382）

同　10・19

頓阿序注を中楯勘太夫書写（大橋政勝本）

1721（享保6）5・28

古今抄（東海大学桃園文庫本26・77、伝授書）に一炊翁海〔井上昌海〕奥書⇒1722

同　8中旬

古今伊勢物語切紙書写（宮内庁書陵部本266・80）⇒1857

1722（享保7）5上旬

三秘抄を烏丸光栄書写（八代城主長岡寿之本による）（宮内庁書陵部本鷹360）

⇐1615・⇒1738

同　5－
古今集作者付歌数書写（静嘉堂文庫本）⇐1718

同　6・15
古今抄（東海大学桃園文庫本26・77、伝授書）を法橋井上昌海、上田広邦に相伝
⇐1721
＊『書目』の「法橋并上昌海」は誤り

同　夏
顕注密勘版本に仁木充長校合（冷泉家本による）（初雁文庫版本12・83校合本、鶴舞図書館版本校合本〈海野圭介論文による〉、慶応大学版本115・59校合本）
⇐1499、1702・⇒1759

同　7・7
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を嘉珍、于城に付与（初雁文庫本12・168、堺市立中央図書館本、東海大学桃園文庫本26・88）⇐1709・⇒1770、1773、1807、1812

同　7－
古今伊勢物語切紙に瑞雲寺円識奥書（神宮文庫本）

同　9－
延五記〔序中秘伝切紙〕を桑門遊街、某に授く（刈谷市中央図書館本）⇐1492

1723（享保8）秋
和歌極秘伝（山口県立図書館本W 911.101・A、八雲神詠秘訣関連）を源守清、某に伝授

同　11 －

古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕に識語（東海大学桃園文庫本 26・80）⇐ 1697・⇒ 1810

1724（享保 9） 4・11

古今和歌集序抄（跡部光海）の講義行わる、11 －、伴部安崇奥書（東北大学本）⇒ 1759

1726（享保 11） 7 －

三木三鳥〔西三条家伝〕（和歌口伝と合写）を翠遥舎書写（東北大学本）⇐ 1192（和歌口伝奥書）

同　11・28

宮内庁書陵部本古今秘伝集（荷田東麿相伝）を東麿書写、村井政方に相伝、書簡を付す⇒ 1748

1727（享保 12） 2・4

八雲神詠秘訣を田岡叙庸、宮川松堅より伝受（初雁文庫本 12・186）⇐ 1509・⇒ 1740

同　3・7

阿古根浦口伝（1）（合写）を倍千（平松維時）書写（大阪市立中之島図書館本）⇐ 1390

同　3 下旬

古今和歌集伝之辨（近松茂矩）成る、翌享保 13・5・1、橘正矩序を付す（東京大学国語研究室本）⇒ 1775

同　12 －

二条義徳注（仮名序注）書写（東京大学本）

1728（享保 13） 5 －

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々・古今天真独朗巻（平間長雅）を莫遊斎短山、白光胤へ相伝（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1709・⇒ 1767

同　6 －

大江広貞注関連〔古今集極秘之大事〕を高瀬久孝書写（国会図書館本）⇐ 1691

同　7・11

三秘抄を望百里書写（宮城県図書館本）⇐ 1636

同　8・28

古今余材抄を吉田貞則書写（憲意本による）（早稲田大学本へ 4・289）⇐ 1698・⇒ 1810

同　9・1

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々（平間長雅）を莫遊斎短山、度会常典に付与（東海大学桃園文庫本 26・74）⇐ 1709・⇒ 1748

同　11・3

灌頂唯授一子之大事を清漣宇水衣書写（静嘉堂文庫本 518・18・22057）⇐ 1658・⇒ 1762

1729（享保 14） 5・8

古今三十五口決に他の伝授書を加え、田村当徳書写（東北大学本）⇐ 1713、1714・⇒ 1816

同　6・6

古今和歌集切紙伝授（延五記〔古今声句相伝聞書〕、古今二字相伝、為家抄等合写）を申斎隆徳書写（宮内庁書陵部本 501・445）⇐ 1491、1588、1597

同　6・19　同　7・23
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授に年記あり（神宮文庫本3・4416）⇒1759

同　閏9・13
古今栄雅抄を宇治法眼了瑄書写（神宮文庫本）⇐1561

同　11 －
顕注密勘を仁木充長書写（冷泉家本による）（内閣文庫本200・55）⇐1280

同　12・8
三箇秘授書写（東海大学桃園文庫本25・74「和歌秘事」）⇐1705

1730（享保15）5・11
三木三鳥〔西三条家伝〕（和歌口伝と合写）に年記（慶応大学本）⇐1192（和歌口伝奥書）

同　9・25
古今三鳥三木秘訣（神宮文庫本3・5785、伝授書）に文雄識語

同　11 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕・八雲神詠口訣を瀬下江月堂閑翁、黄鶴子に授与（東京大学国語研究室本）

1731（享保16）1 －
古聞（序注）を中野正英、横田次常に相伝（八戸市立図書館本）⇐1719・⇒1756

同　3下旬
古今秘訣（東海大学桃園文庫本26・76、伝授書）を三右亭以中書写

同　5 －

僻案抄に仁木充長、冷泉為綱本を校合、さらにそれによってかはやしろを補写（内閣文庫本 202・119、「かはやしろ」は 202・120）⇐ 1226、1681

同　5・14
古今集極秘に卜部兼雄奥書（天理図書館吉田文庫本 81・318）⇐ 1617

同　夏
古今和歌集伝授由来聞書私考（川上本、伝授書、八雲神詠秘訣他と合写）に整斎戸川咸佐奥書

同　8 －
古今集秘講聞書（東海大学桃園文庫本 26・34、全注〔近世〕）を亀屋短山翁の講により筑紫玄水翁書写⇒ 1738

同　11 －
和歌極秘口授（天理図書館本 911.2・803、伝授書）を三和相伝⇐ 1692

同　12 －
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を聞寿院了海書写（宮内庁書陵部本伏 152）

1732（享保 17） 5・11
延五記に関川平四良所持識語（筑波大学本）⇐ 1546

同　閏 5・13
古今集口訣（合写）を井上篤好書写（九州大学本）⇐ 1594

同　8・30
古訓密勘注を成慶、寛永 1 奥書本で校合（この年、中嶋半十郎重豊に書写せしむ）（東大寺本）⇐ 1624

同　9・20
勅撰集真名序注（阪光淳）を市川久次郎佳豊書写（ノートルダム清心女子大学本）

1733（享保 18） 3・23 ～ 24
三流抄を浄賢寺定演書写し、両序本文を付す（京都大学本 4 － 23・コ 8）⇐ 1555

同　4・17
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を連〔速〕水昌勝書写（大阪市立大学本）⇐ 1697・⇒ 1737

同　夏
伝授抄（松永貞徳）書写（宮内庁書陵部本）⇐ 1646・⇒ 1758

同　10・3
古今伝授（大阪市立大学森文庫本 911．135・ＫＯＫ、伝授書）書写

同　11・18
密譚鈔を沾尹書写（大鹿清基〈冷泉為久雑掌〉本による）（龍谷大学本）

同　11・30
古今六鳥八柏大事を蘭渓久肱於秀斎書写（井上篤好本による）（石川県立図書館本）

同　12・17
三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄を蘭渓久肱於秀斎書写（井上篤好本による）（石川県立図書館本）

1734（享保 19） 1・25
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕蘭渓久肱於秀斎書写（井上篤好本による）（石川県立図書館本）

同　4 －
古今和歌集伝書を武者小路実蔭、某に相伝（ノートルダム清心女子大学本）⇒1788

同　5・5
家伝書（初雁文庫本12・149、伝授書）を月空庵露川、窪田松琵子明に授く⇒1751

同　9 －
八雲神詠秘訣を藤原永澄、某に授与（小林強本）⇐1543

同
この年、古今切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を山下□衛門書写（米沢市立図書館本）⇐1689・⇒1808

1735（享保20）2・17
八雲神詠秘訣を宮川松堅、神田祐世に付属せしむ（弘前市立図書館本）⇐1686・⇒1741

同　3・18
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を元啓、喜多知貴に伝授（初雁文庫本12・182）⇐1705・⇒1762

同　4・27
古今伝受（天理図書館吉田文庫本81・192、伝心集関連）に卜部兼雄加証

同　7 －
古今和歌灌頂巻に卜部兼雄識語（天理図書館吉田文庫本81・30）⇐1323

同　12・26
和歌灌頂抄に極目堂子健加証（祐徳稲荷神社本）⇐1533

1736（元文 1）6・4

玉伝深秘巻を孟機書写（祐徳稲荷神社本 6・22・249）

同　7－

古今集題号奥秘口訣を掌静翁源高成、理津子御方に付与（国会図書館本）

1737（元文 2）1－

古今天真独朗巻を関鐸士振書写（筑波大学本）⇐ 1709

同　2・15

古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を友之円応書写（古今伝授の里フィールドミュージアム本）

同　2－

古今集藤沢伝を忠雅伝授（東海大学桃園文庫本）⇐ 1591

同　4・20

八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を〔吉田兼雄〕書写（天理図書館吉田文庫本 81・262）⇐ 1702

＊『書目』に「元久二年」とするは誤り

同　4・26

古今天真独朗巻を吉田兼雄書写せしむ（天理図書館吉田文庫 81・66）⇐ 1709

同　4－

古今集題号奥秘口訣に奥書（初雁文庫本 12・212）

同　6－

古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を宇田津正胤書写（熊本大学永青文庫本 8・2・110）⇐ 1704・⇒ 1778

同　9・5
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を沢田重渕書写（大阪市立大学本）⇐ 1733

同　11 上旬
延五記〔序中秘伝切紙〕・古今二字相伝を能陳書写（宮内庁書陵部本 266・325）⇐ 1588

1738（元文 3） 1・13
古今相伝蜜勘抄（宮内庁書陵部本鷹 468、古今和歌灌頂巻・毘沙門堂本古今集注〔京都女子大本〕の項に掲出）を書写⇒ 1854

同　3 －
三秘抄を肥後より到来の本にて烏丸光栄校合、校合本の元和奥書を転記（宮内庁書陵部本鷹 360）⇐ 1615、1722・⇒ 1852

同　6 中旬
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を坂政峯書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1705・⇒ 1754

同　8・6
古今集秘講聞書（東海大学桃園文庫本 26・34、全注〔近世〕）を八重垣翁（伴部安崇）、筑紫玄水翁の伝により書写⇐ 1731

同　11 －
古今集和歌三鳥三草四木秘密伝（慶応大学国文学研究室本、伝授書）を梅暁堂呈瑞、老李翁貞陸に伝う

1739（元文 4） 4 －
古今持為注を五嶺館村径書写（高城功夫本）⇐ 1477

同　7・17
古今集童蒙抄を水竹居依経書写（九州大学文学部研究室本）⇐1529・⇒1743

同　8・15
古今天真独朗巻を河北経義書写（谷公介〈谷川士清〉に授与さる）（神宮文庫本3・512）⇐1709

同　8・22
古今見聞抄（河瀬菅雄）を包白書写（菅雄并女菅野筆本による）（静嘉堂文庫本）

1740（元文5）秋
八雲神詠秘訣（合写）を田岡叙庸書写（初雁文庫本12・186）⇐1727

1741（寛保1）3中旬
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を藤原忠辰書写（龍谷大学写字台文庫本911.204・40）⇐1646

同　5中旬
住吉和歌伝講義（名古屋市立鶴舞図書館本、八雲神詠秘訣関連）書写

同　9上旬
古今集真名序（小林強本、伝授書）書写⇒1807

同　9－
八雲神詠秘訣を神田祐世、早川丈石に与う（弘前市立図書館本）⇐1735・⇒1763

1742（寛保2）3・5
古今三木一草秘訣相伝（東北大学本狩4・10331、伝授書）を甘泉庵芳室、某に伝授

同　3・24
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を浅草庵親路書写（蓬左文庫本 30・20）

同　5－
和歌灌頂次第秘密抄を平重雅相伝（宮田省斎良和よりか）（宮内庁書陵部本鷹 250）
＊『書目』には「大江広貞注〔古今集極秘之大事〕」の項に掲げ、前半が「和歌灌頂次第秘密抄」であることの指摘なし。また、備考の最初の「和歌灌頂之巻」は「古今集極秘之大事」の誤り

同　8－
古今集抄の奥に書ける詞（加藤枝直）成る（天理図書館本）

同　9－
古今左注論（賀茂真淵）成る（諸本）⇒ 1745、1778、1785、1813、1816
＊『書目』に荷田在満とするを改む

1743（寛保 3） 3・26
古今二字相伝・延五記〔序中秘伝切紙〕を勢亀東啓衷（未詳）書写（合写）（初雁文庫本 12・167）⇐ 1588・⇒ 1748

同　閏 4・27
古今和歌灌頂巻（愚秘抄合写）を藤岡辰春書写（東海大学桃園文庫本 26・64）

同　7・22
古今集童蒙抄に古今和歌集秘抄を校合（九州大学文学部研究室本）⇐ 1739・⇒ 1839

1744（延享 1） 4・11
古今和歌袖中抄を〔大八木？〕吉春書写（ノートルダム清心女子大学本）

同　4・29 ～ 5・23
古今集御伝授（宮内庁書陵部本Ｆ 4・56、伝授書）によれば、烏丸光栄、職仁親王に古今伝授

同　7・12
古今天真独朗巻を大江政苗書写（三手文庫本）⇐ 1709・⇒ 1760

同（寛保 4）　9 －
古今切紙廿三条を源永利峯書写（カリフォルニア大学本）⇐ 1689・⇒ 1746
＊改元は 2・21

1745（延享 2） 3・12
古今左注論（賀茂真淵）を谷垣守書写（高知県立図書館山内文庫本ヤ 911・29、同ヤ 911・54）⇐ 1742

同　3 －
古今和歌集抜註成るか（宮内庁書陵部本）⇒ 1770
＊「乙丑」を仮にこの年に宛てる

同　5・15
八雲神詠秘訣を大宅圀成、谷川士清蔵書により書写（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1702

同　5 －
古今和歌灌頂巻に奥書（川上本）⇐ 1711・⇒ 1746

同　8・19
古今集極秘を小倉正信書写（福軒主人本による）（龍谷大学本 911.201・35）

同　8・24

古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を竹原惟親（玄路）書写（熊本大学永青文庫本 8・2・8）

同　11 下旬
後水尾院御抄（道晃法親王聞書）を烏丸光栄書写（河野美術館本）⇐ 1664

1746（延享 3） 1 －
古今切紙廿三条書写（カリフォルニア大学本）⇐ 1744

同　2・5
古今切紙廿三条を田岡叙庸書写（秦勝連本による）（川上本）

同　3 中旬
古今和歌灌頂巻を書写（川上本）⇐ 1745

1747（延享 4） 閏 6・18
古今序聞書（八戸市立図書館本南 15・397、古今切紙廿三条・古今伊勢物語切紙と合写）書写⇐ 1707

同　7・3
八雲神詠秘訣（切紙）を〔吉田兼雄〕書写（天理図書館吉田文庫本 81・269）⇐ 1694

1748（延享 5） 1 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を書写（東海大学桃園文庫本 26・68）⇐ 1594（右家之秘密切紙依懇望令書写畢…文禄三甲午年五月吉日宗祇法師自筆殊血判有之以本写之畢）

同　2・3
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々（平間長雅）の残余を赤井含章斎一貞（莫遊斎短

山嫡孫)、祖父の命により度会常典に付与（東海大学桃園文庫本 26・74）⇐ 1728・⇒ 1776

同　4－～寛延 2・3－
三鳥三木切紙伝（初雁文庫本 12・166、伝授書）を長秀、森川主馬章信に授与

同
この年、宮内庁書陵部本古今秘伝集（荷田東麿相伝）に村井政貞の短冊識語付される⇐ 1726

同（寛延 1）　11・12
古今二字相伝・延五記〔序中秘伝切紙〕書写（合写）（初雁文庫本 12・167）⇐ 1743

1749（寛延 2） 3・5
古今集題号奥秘口訣を卜部兼雄書写せしむ（天理図書館吉田文庫本）

同　4－
六条家古今和歌集伝授（紀海音）に寸江年記（九州大学本）

同　12 中旬
了誉序注書写（東京大学国語研究室本）⇐ 1535

1750（寛延 3） 3－
八雲神詠秘訣・古今切紙口伝条々〔宗祇流〕書写（三重県立図書館本）

同　8－
伝授抄（松永貞徳）附録を追加書写（初雁文庫本）⇐ 1709

1751（寛延 4） 5－

三流抄を直淵、五嶺館芳主に授与（初雁文庫本 12・115）

同　6下旬
古今二字相伝・延五記〔序中秘伝切紙〕書写（合写）（初雁文庫本 12・150）⇐ 1705

同　6下旬
家伝書（初雁文庫本 12・149、伝授書）を朝聞亭菊籬書写⇐ 1734

同　閏 6・3
伝授抄（松永貞徳）付載三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄を藤原定賢書写（岡本寛松より伝受）（宮内庁書陵部本）⇐ 1646・⇒ 1759

同（宝暦 1）　12・21
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を橘諸持、藤原重豊に相伝（九州大学本）⇐ 1706

1752（宝暦 2） 3・19
松永貞徳古今秘説（金沢市立図書館稼堂文庫本「諸家口授附録」091.8・359 中にあり、伝授書）に拙翁奥書⇐ 1715・⇒ 1854

同　5・20
僻案抄を冷泉為村、田嶌広武に与える（国会図書館本 211・496〈川平ひとし論文による〉）⇐ 1226・⇒ 1807

1753（宝暦 3） 5 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を直堅書写（初雁文庫本 12・165）

同　7・25 ～ 12・9
古今増抄（萩原宗固）このころ成る（初雁文庫本）⇒ 1766

1754（宝暦 4）3・2

古今余材抄（契沖）付載仮名序注（下河辺長流）末に本居栄貞（宣長）書写の奥書あり（国会図書館本 224・2）⇐ 1692

同　4 －

古今通（五井純禎〈蘭洲〉、加藤景範補）を景範補訂書写（大東急記念文庫本）

＊ 1785 参照

同　6 －

古今伝受〔臼井家本〕を荒木田尚胤書写（神宮文庫本 3・508）

同　7・20

古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を吉貞條書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題〉による）⇐ 1738

同　11・17

古今伊勢物語切紙を利亮書写（八戸市立図書館本）⇐ 1684

1756（宝暦 6）春

古今通（五井純禎〈蘭洲〉）を吉田盈枝書写（ノートルダム清心女子大学本、仙台市民図書館本）⇒ 1817

同　3 －

古聞（序注）を横田次常、南部信興に相伝（八戸市立図書館本南 15・392）⇐ 1731・⇒ 1758

同　8 －

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を長嶋文貫、橋彦に伝授（宮内庁書陵部本鷹 377）⇐ 1594（右家之秘密切紙依懇望令書写畢…文禄三甲午年五月吉日宗祇法師自筆殊血判有之以本写之畢）

＊但し、「自筆殊血判有之以本写之畢」脱

同　11 －
三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕を丸山某書写（斯道文庫本）⇒ 1816

1758（宝暦 8） 4・1
古聞（序注）を南部信興、南部信之に相伝（八戸市立図書館本南 15・392）⇐ 1756

同　8 －
頓阿序注書写（山口大学本）⇐ 1618

同　8 －
伝授抄（松永貞徳）筆工しげゆき書写（宮内庁書陵部本）⇐ 1733（1759 参照）

同
この年、伝授抄（松永貞徳）書写（初雁文庫本）⇐ 1646
＊前項とはおそらく別

同　10・13
両度聞書（宝永 6 年版本）に阿蘇惟雪、古今集血脈抄を書入（熊本大学永青文庫本 100・12・173）⇐ 1709

1759（宝暦 9） 1 －
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を村田尹清書写（神宮文庫本 3・4416）⇐ 1729

同　6 －
八雲神詠秘訣を山崎光豊、某に付属せしむ（飯田市中央図書館本）⇐ 1695

同　11・5

伝授抄（松永貞徳）付載三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄を芥子斎書写せしむ（宮内庁書陵部本）⇐1751（1758参照）

同　12・30
顕注密勘を萩原宗固校合（冷泉家本による）（鶴舞図書館版本〈海野圭介論文による〉、慶応大学版本115・59は宗固の署名なく、宮部義直の書入あり）⇐1722

同
この年、古今和歌集序抄（跡部光海）を川嶋長興、志田氏より授与さる（東北大学本）⇐1724

1760（宝暦10）5・10
古今天真独朗巻を大江政苗謹写（三手文庫本）⇐1744

同　5・12
三木三鳥伝虚空彦伝（天理図書館吉田文庫本81・65、伝授書）を町尻兼原書写（玉木正英奥書本による）

同　12－
中院古今伝授極秘事抄に年記（初雁文庫本）
＊『書目』に「十一月」とするは誤り

1761（宝暦11）3・20
八雲神詠相伝之覚書（天理図書館吉田文庫本81・259、八雲神詠秘訣関連）を〔吉田兼雄〕書写⇐1701

同　5・1
古今和歌集もとのこころ（村上影面）に影面跋を加う（大阪市立大学本）

同　7・11

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕・八雲神詠秘訣（改編）を町尻兼原書写（天理図書館吉田文庫本 81・34）

同　11 －
古今和歌集一部之清濁同口決条々を阿蘇惟雪書写（熊本大学永青文庫本 8・2・72）⇐ 1602・⇒ 1762

同　11 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を菅原孝輔書写（宮内庁書陵部本谷 254）

1762（宝暦 12） 1 －
古今和歌集一部之清濁同口決条々の阿蘇惟雪書写本に竹原玄路加証（熊本大学永青文庫本 8・2・72）⇐ 1761

同　4 －
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を喜多知貴、太田快繁に附属せしむ（初雁文庫本 12・182）⇐ 1735・⇒ 1791

同　閏 4 上旬
灌頂唯授一子之大事を昌芳書写（静嘉堂文庫本 518・18・22057）⇐ 1728・⇒ 1800

同　5 －
顕注密勘の阿蘇惟雪書写本に竹原玄路加証（熊本大学永青文庫本）

同　7 －
古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を芭高書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1689・⇒ 1838

同　10 －
小幡正信注を藤姫書写（岡山大学本）⇐ 1704

1763（宝暦 13）2・28

八雲神詠秘訣（切紙）の書写を冷泉為村、吉田兼雄に許さる、3・7、同じく八雲神詠秘訣を許さる、5・11、さらに切紙を授与さる（この項詳細不明、要検討）（天理図書館吉田文庫本 81・257、同 81・258）⇐ 1526

同　6 －

八雲神詠秘訣を早川丈石（宗順）、松本禽翁に授与（弘前市立図書館本）⇐ 1741

同　7 －

古今和歌集切紙〔古今三箇之大事〕に松田主馬亮奥書（京都大学本）

1764（明和 1）10・19

歌道筒守（玉木正英）を中川経雅書写（神宮文庫本 3・135）

同　11 －

続万葉論（賀茂真淵）成る（内閣文庫本等諸本）

1765（明和 2）春

続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）に真淵の年記あり（静嘉堂文庫本 500・4・2039、神宮文庫本 3・4420）⇒ 1773、1783

＊前項との関係不詳

同　5・14

八雲神詠秘訣を町尻兼原書写（天理図書館吉田文庫本 81・263）⇐ 1509

＊『書目』に宝暦 10 写とするは、合写本の年記

同　6・28

歌道師資相承古今伝授を町尻兼原書写（武者小路実岳本による）、7・18、さらに吉田兼雄転写（天理図書館吉田文庫本）

1766（明和 3）5・7

顕注密勘を度会常典書写（筑波大学本）⇐ 1685・⇒ 1857

同　8・18 ～明和 5・12・2

古今増抄（萩原宗固）を葛上忠昭書写（初雁文庫本）⇐ 1753

1767（明和 4）9・24

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々・古今天真独朗巻（平間長雅）を芝山持豊相伝（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1728

1768（明和 5）1 中旬

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授書写（静嘉堂文庫本 518・18・22058）

1769（明和 6）2・17

古今廿条之内甚秘口訣切紙伝受を新豊亭細谷文卿書写（国会図書館本）⇐ 1705

同「菊霜置頃」

古今集極秘を土屋光風書写（龍谷大学本 911.1351・24）⇐ 1683

同

この年、古今和歌助辞分類に村上影面序を付す

1770（明和 7）10・15

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を大河内重平書写（谷川士清本による）（初雁文庫本 12・168）⇐ 1722

同　10 －

古今和歌集抜註を橋本貞郁書写（二南斎先生本による）（宮内庁書陵部本 266・301）⇐ 1745

1771（明和 8）6・29
古今和歌灌頂巻書写（富山県立図書館本）

1772（明和 9）2・11
古今涇渭抄を藤原実豪書写（東海大学桃園文庫本）

同　11 －
古今集真名字解（菊池春林）成る（自跋）⇒ 1774

1773（安永 2）2 －
源氏古今伝授書を宮内守中書写（関百船翁本による）（静嘉堂文庫本）
＊前に元亀 1・9・25 松永貞徳奥書あれど不審

同　3 中旬
古今伝授書（早稲田大学伊地知鐵男文庫本 319、伝授書）を柳子園始水源可道書写 ⇐ 1683
＊古今集極秘、古今切紙口伝条々〔宗祇流〕等の伝授書合写

同　3 －
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を風真軒、慈延に付与（東海大学桃園文庫本 26・88）⇐ 1722・⇒ 1784

同　3 －
古今秘奥（初雁文庫本 12・181、伝授書）に藤原尭明奥書す⇒ 1801

同　春
古今和歌詠格（長谷寺豊山文庫本、伝授書）を前大納言正二位藤原朝臣光種（不審）、水鏡軒に与う⇒ 1787

同　秋

続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を内山真龍書写（無窮会神習文庫本 9895）⇐ 1765

1774（安永 3） 4 －

古今集真名字解（菊地春林）刊行（京　吉田四郎右衛門）⇐ 1772

同　9 －

古今切紙二十三条を関屋某書写（東北大学狩野文庫本狩 4・10330）

＊『書目』未載

1775（安永 4） 2・1

古今和歌集伝之辨（近松茂矩）を鳥居彦五郎源直形書写、追加を加う（東京大学本、初雁文庫本）⇐ 1727

同　8・28

古今和歌集一部之清濁同口決条々を度会常夏校合（清水宗川本による）（熊本大学永青文庫本 2・4・23）⇐ 1625・⇒ 1818

1776（安永 5） 1 －

超大極秘古今内伝受切紙口訣条々（平間長雅）を度会常典、度会常夏に授く（東海大学桃園文庫本 26・74）⇐ 1748

1777（安永 6） 9 －

続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を荒木田経雅書写（本居宣長本による）（神宮文庫本 3・504）

1778（安永 7） 3 －

古今三鳥三木三条家極秘伝聞書（天理図書館吉田文庫本 81・64、伝授書）を松岡雄淵書写

同　4・15
古今左注論（賀茂真淵）書写（黄州先生〈新井白蛾か〉本による）（ノートルダム清心女子大学黒川文庫本E 94）⇐1742

同　5・10
古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を矩房書写、7・23、竹原玄路奥書（熊本大学永青文庫本8・2・110）⇐1737

同　5・28
古今和歌集序説（荷田春満説）を志貴泰政書写（宮ヶ崎町深江氏本による）（川上本）⇒1867
＊『書目』未載

同　8・1～12
親房注を一息軒当冬書写（宮内庁書陵部本鷹508）⇐1709

同　8・22
和歌灌頂次第秘密抄に年記（矢口米三本）

1781（天明1）4・21
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を大宮倭道翁光長書写（初雁文庫本12・183）⇒1785

同　6中旬
古今十巻之切紙（初雁文庫本12・179、伝授書）を秦中英書写⇐1701

同
この年、古今和歌集序注（上越市立図書館本30・44、序注〔近世〕）をほすみのかつやす購得⇒1788

1782（天明2）1－

古今集誹諧歌解（各務支考）刊行（三都書肆、江戸　山崎金兵衛等）⇐1697

＊蝶夢の序は天明3・6－

1783（天明3）5・18

八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を緒方公良書写（小林強本）⇐1702

同　7－

続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を畑井旅麿書写（神宮文庫本3・4420）⇐1765

同　12中旬

阿古根浦口伝関連（1）を村井古巌書写（神宮文庫本3・1532）

1784（天明4）4・6

古今三木三鳥考（伊勢貞丈）成る（諸本）⇒1857

同　12－

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕、超大極秘古今内伝受切紙口訣条々（合写）を慈延、谷口佐農子に相伝（東海大学桃園文庫本26・88）⇐1706、1773・⇒1846

同　12下旬～天明5・1・4

続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を羽根直清書写（西山直樹本による）（上越市立図書館本）⇒1785

1785（天明5）1－

古今灌頂相伝（小林強本、伝授書）を九河祐豊、綾戸子に与う

同　4・24

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕を湯浅定方書写（初雁文庫本12・183）⇐1781

同　5・9

古今左注論（賀茂真淵）を藤岡豊年書写、同 7 －、荒木田久老本で校合（初雁文庫本 12・195）⇐ 1742・⇒ 1786

同　8 －
続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を幸直書写（荒木田久老本による）（上越市立図書館本）⇐ 1784・⇒ 1788

同　10 －
古今和歌集打聴（賀茂真淵）に野村遜志序を付す⇒ 1786

同　12 －
古今通（五井純禎〈蘭洲〉、加藤景範補）を加藤景範刪補す（初雁文庫本、静嘉堂文庫本）⇒ 1804
＊ 1754 参照

1786（天明 6） 6 上旬
古今左注論（賀茂真淵）を生嶋足雄書写（初雁文庫本 12・195）⇐ 1785・⇒ 1798

同　10 －
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を守一庵台路書写（矢口米三本）

同　11 －
古今和歌集打聴（賀茂真淵）序・四季部刊行（江戸大坂書肆、大坂　増田源兵衛等）⇐ 1785・⇒ 1789

1787（天明 7） 4・18
古今和歌詠格（長谷寺豊山文庫本、伝授書）を水鏡軒、盛龍阿子に与う⇐ 1773

1788（天明 8） 春
古今和歌集序注（上越市立図書館本 30・44、序注〔近世〕）をほすみのかつやす書

写⇐ 1781・⇒ 1811

同　8・18
古今集口決・徒然草大事（神宮文庫本 3・4417、伝授書）を林氏栄書写⇐ 1693

同　9 －
続万葉論〔古今序考〕（賀茂真淵）を某書写（幸直本による）（上越市立図書館本）⇐ 1785

同　12 －
古今和歌集伝書（武者小路実蔭伝）に田中善正序文を付す（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1734・⇒ 1829

1789（寛政 1） 4 －
古今和歌集打聴（賀茂真淵）刊行（三都書肆、大阪　増田源兵衛等）⇐ 1786
＊書肆を異にする後印本あり

1790（寛政 2） 7 下旬
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授書写（龍谷大学本 911.1351・21）⇐ 1480

1791（寛政 3） 3 －
八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝を太田快繁、□原庄三郎に伝授（初雁文庫本 12・182）⇐ 1762

同　8 －
三鳥三木伝（川上本、古今和歌集灌頂口伝と合綴）を浅久儔書写

1792（寛政 4） 11・10
後水尾帝勅伝古今秘訓を風早実秋、柳沢保光に与う（鶴見大学本）

1793（寛政 5）5・末一日
古今和歌集切紙大事（伝授書、川上本）を中重栄書写し、小野信興に与う
＊『書目』未載

同　6・23
古今和歌集講本を速見宗達書写（東北大学本）

同　10・14
古今余材抄（契沖）を石川雅望校正し、識語（静嘉堂文庫本 518・16・22040）
⇐ 1692

1794（寛政 6）8・19
古今序中六義諸説並自註（小沢蘆庵）成る（諸本）

1795（寛政 7）5 －
古今和歌集講本を吉田元長書写（九州大学本）

1796（寛政 8）1 －
古今和歌集ひなことば（尾崎雅嘉）刊行（大坂　増田屋源兵衛等）

1797（寛政 9）1 －
古今和歌集遠鏡（本居宣長）刊行（尾張　永楽屋東四郎）⇒ 1816

同　2・25
文亀二年宗祇注を浦山景一書写（初雁文庫本）⇐ 1683

同　5・30 ～寛政 10・3・7
古今集御伝受の抜書（宮内庁書陵部本 264・462、伝授書）成る
＊後桜町上皇より閑院宮美仁親王への伝授か

同　9・11
古今和歌集秘事を佐藤忠海書写（川上本）
＊『書目』未載

1798（寛政 10） 2・5
古今集書法（東北大学狩野文庫本 4・10333、古今三木三鳥考・古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授と合写）に某（塗抹）奥書⇒ 1813

同　4 上旬
古今左注論（賀茂真淵）を重松安精書写（初雁文庫本 12・195）⇐ 1786

同　9 －
了誉序注を神珠書写（東海大学桃園文庫本 26・49）⇐ 1406

1799（寛政 11） 9 －～ 10 －ころ、古今通（五井純禎〈蘭洲〉、加藤景範補）を某（小林歌城か）、田村阿太とともに書写（無窮会本）

1800（寛政 12） 3・3
灌頂唯授一子之大事を時信書写（静嘉堂文庫本 518・18・22057）⇐ 1762・⇒ 1812

1801（寛政 13） 2 中旬
古今秘奥（初雁文庫本 12・181、伝授書）に野口薫十感得奥書す⇐ 1773
＊『書目』寛政十三年写とするが、安永二年写か

同（享和 1）　4 －
古今補註（高井宣風歟）を秋田保徴書写（臼杵市立図書館本和 15、同和 19）⇒ 1823

同　7・12
古今和歌灌頂巻を源正鳳書写（八戸市立図書館本）

1802（享和 2）1 －

阿古根浦口伝（別本）を椀洞斎書写（川上本）

同　3 －

続万葉異本考、このころ清輔本古今集を見た海量執筆す（大東急記念文庫本）

⇒ 1832

1804（文化 1）

この年、古今通（五井純禎〈蘭洲〉、加藤景範補）を加藤敦善書写（静嘉堂文庫本）

⇐ 1785

1805（文化 2）5・20

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授（片桐洋一本「光広伝古今三鳥三木記」〈片桐教授伝授書解題による〉）を木川信好書写⇐ 1622・⇒ 1807

同　9 －

小笠原流古今伝授切紙を晋如書写（宮内庁書陵部本 501・444）

1806（文化 3）4・23

三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕を藤原普書写（逮栄道士本による）（慶応義塾図書館本 141・56）

同　8 中旬

僻案抄を信誠書写（太宰府天満宮本小 334）⇐ 1240

＊『書目』未載

同　10・27

古今三木三鳥考（伊勢貞丈）を源家悟書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）

1807（文化 4） 4・19
古今集真名序（小林強本、伝授書）を中尾素高子堅書写⇐ 1741

同　4・21
宗碩聞書を柳沢保光書写せしむ（日野資矩本による）（鶴見大学本）⇐ 1501

同　5 －
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を玉手国敦書写（堺市立中央図書館本）⇐ 1722

同　6・9
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授（片桐洋一本「光広伝古今三鳥三木記」〈片桐教授伝授書解題による〉）を山田徳好書写⇐ 1805

同　10 －
僻案抄を源直純書写（国会図書館本 211・496〈川平ひとし論文による〉）⇐ 1752

1808（文化 5） 7 －
古今切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を〔得能〕書写（米沢市立図書館本）⇐ 1734

1810（文化 7） 1・9
古今和歌集見聞愚記抄を都築務敏書写（静嘉堂文庫本）

同　3 上旬～文化 8・2 －
古今余材抄（契沖）を□の屋の春彦書写（賀茂季鷹本による）（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1692

同　3・26
古今余材抄を国分永胤書写（嶋田正修本による）（早稲田大学本へ 4・289）⇐ 1728

同　5下旬
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を小田井貞金書写（東海大学桃園文庫本26・80）⇐1723

1811（文化8）2－
古今和歌集序注（上越市立図書館本30・44、序注〔近世〕）を源貞固書写（ほすみのかつやす本による）⇐1788

同　3－
古今切紙廿三条を二葉菴錦洲書写（國學院大學本）⇐1541

同　7下旬
古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授を進藤俊幸書写（天理図書館本911.23・153）

同　9・14
勧修寺本古今和歌集注書写（九州大学本）⇐1628

同　11－
古今切紙口伝条々〔宗祇流〕・古聞真名序を岡田某書写（ノートルダム清心女子大学黒川文庫本B 26）⇐1602

1812（文化9）1・10
古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕を安見宗隆書写（真田輝信本による）（宮内庁書陵部本鷹492）⇐1697

同　1・28
超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を安見宗隆書写（真田輝信本による）（宮内庁書陵部本266・305）⇐1722

同　3中旬

和歌灌頂次第秘密抄・古今和歌集灌頂口伝を□足庵東〔牛〕書写（久保田淳本）

同　9－
校本古今和歌集（蓮阿編）自序⇒1826

同　12・14
灌頂唯授一子之大事を橘能孝書写（静嘉堂文庫本518・18・22057）⇐1800

1813（文化10）1－
古今集書法（東北大学狩野文庫本4・10333、古今三木三鳥考・古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授と合写）を某（塗抹）書写⇐1798

同　11－
古今左注論（賀茂真淵）を清水浜臣本で校合（慶応大学本）⇐1742

1814（文化11）7・26
古今伝授書写之分（岐阜県大和町〈古今伝授フィールドミュージアム〉本、三部書口伝・古今和歌集見聞愚記抄などを含む）を平（東）胤忠、再編書写を始める

同　10・21
古今和歌集もとのこころ（村上影面、仮名序注）を雷木子書写（東北大学本）

1816（文化13）5・8
古今和歌集切紙〔古今三箇之大事〕を矢口正造書写（矢口米三本）

同　5・15
古今余材抄（契沖、真名序注）を思斎主人書写（深谷盛房本による）（静岡県立中央図書館本）

同　5－

古今三十五口決（合写）を三鳩亭柴雨書写（東北大学本）⇐1729

同　8・15
古今左注論（賀茂真淵）書写（国会図書館本）⇐1742・⇒1863

同　8－
三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕を曳尾斎書写（斯道文庫本）⇐1756

同　12－
古今和歌集遠鏡（本居宣長）再印（三都並尾張書肆、尾張　永楽屋東四郎等）⇐1797
＊〔江戸末〕刊の別版あり、明治8版はその再印

1817（文化14）1－
古今通（五井純禎〈蘭洲〉）書写（仙台市民図書館本）⇐1756

同　9・7
守部注に自筆識語（天理図書館本）

同　12－
古今集三絞綱（松平甚五左衛門可萬）自序、翌文化15・10・4、端書（多和文庫本）

1818（文化15）3－
兼好注を青霞園主人義路書写（東京大学国文学研究室本）
＊兼好注は為重注の一本

同（文政1）　7－
古今和歌集一部之清濁同口決条々に関野清修加証（度会常夏本）（熊本大学永青文庫本2・4・23）⇐1775

1819（文政 2） 閏 4・9 ～ 11

僻案抄を中川長員書写（高松公祐本による）（穂久迩文庫本〈川平ひとし論文による〉）⇐ 1240

1822（文政 5） 春

三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕を東条為名書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1714

1823（文政 6） 7 －

歌の奥義（佐賀県立図書館本鍋 991・1903、伝授書）を田中寿和子書写⇐ 1702

同　12 －

古今補註（高井宣風歟）を三浦義房書写（臼杵市立図書館本和 15）⇐ 1801

1824（文政 7） 5・6

古今左注論（賀茂真淵）を伴直方校合（東海大学桃園文庫本）

同　10 －

古今和歌集朗解（宮下正岑）刊行（三都書肆、京　辻本仁兵衛等）

1825（文政 8） 9・4

古今集大全（黒沢翁満）成る（東北大学狩野文庫本狩 4・10492）

＊『書目』未載

1826（文政 9） 1・7 ～ 9

古今集序爪櫛（五十嵐篤好）自筆草稿成る（大東急記念文庫本）

＊『書目』備考に「正月」とあるは「正月七日」の誤り

同　2 －

校本古今和歌集（蓮阿編）刊行（大阪　秋田屋太右衛門等）⇐ 1812

同

この年、古今補註（高井宣風歟）全四冊のうち第三冊までを酒井定仙書写⇒1840

＊『書目』に「天保一」とするは当年の誤り

1828（文政 11）9－

古今集序仰古抄（近藤芳樹）序文（萩市立図書館本）

1829（文政 12）11・21

古今和歌集伝書（武者小路実蔭伝）を飛鳥井雅光門人富子、いし坂延女に書写せしむ（ノートルダム清心女子大学本）⇐1788・⇒1859

1831（天保 2）11・25

顕昭注を伴信友書写し、諸本で校合（大東急記念文庫本 41・8・2997）⇐1698・⇒1840

1832（天保 3）5－

古今和歌灌頂巻を大平忠叔書写（初雁文庫本 12・118）⇐1323

同　10・19

続万葉異本考（海量）に伴直方手校を加う（宮内庁書陵部本 151・400）⇐1802

＊『書目』未載

1833（天保 4）11－～天保 7・8・5

続万葉論（賀茂真淵）を源利義書写（ノートルダム清心女子大学本）⇒1838

1834（天保 5）1－

八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝書写（榊能屋敏樹主人本による）（太宰府天満宮本）⇐1718

同　4－

三島三木〔西三条内大臣御伝〕を正賢書写（小林強本）

1835（天保 6）4・23
古今余材抄（契沖）を伴直方書写（慶応大学本 88・202）⇐ 1692

同　秋
古今和歌集正義（香川景樹）総論・序正文・序・春上下・夏刊行（三都書肆　京河南儀兵衛等）⇒ 1849

1836（天保 7）2・16 ～ 5・6
古今和歌集旧詞考（推易堂尚安、両序注）書写（東北大学本）

1838（天保 9）2 －
古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を菊井広勤書写（片桐洋一本〈片桐教授伝授書解題による〉）⇐ 1762

同　8・29
続万葉論（賀茂真淵）に平守文奥書す（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1833・⇒ 1854

1839（天保 10）5 上旬
古今集童蒙抄を某、顕鳳比丘に授与される（九州大学文学部研究室本）⇐ 1743

1840（天保 11）2・1
顕昭注を田沢周任書写（伴信友校本）（大東急記念文庫本 41・8・2997）⇐ 1831

同　2 －
古今和歌集切紙〔古今三箇之大事〕を山内豊熙書写（高知県立図書館本）

同　6 －

古今補註（高井宣風歟）全四冊のうち第四冊を酒井定仙書写（九州大学本）⇐1826

1841（天保12）1・29

古今集存疑（鹿持雅澄）成る（諸本）⇒1863

同　2・7

古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授に色川三中取得識語（筑波大学本ル210・26）⇐1480

1842（天保13）8・26

古今習伊勢物語之口伝（高知県立図書館本、伝授書）を山内豊熙書写⇐1718

1843（天保14）7－

頭書古今和歌集遠鏡（山崎美成）刊行（自序による）

＊〔江戸末〕刊の覆刻あり、天保14大溪平兵衛等の刊記あるはその明治印

1844（天保15）2上旬

古今和歌集遠鏡補正（中村知至）刊行（秋場□〔秋葉格非カ〕序による）

1845（弘化2）3・1

古今集釈（賀茂真淵）自筆本に橘守部加証す（宮内庁書陵部本）

1846（弘化3）春

古今切紙口伝条々〔宗祇流〕、超大極秘古今内伝受切紙口訣条々を蘭生苑書写（東海大学桃園文庫本26・88）⇐1784

同　5－

古今伊勢物語切紙を松倉直隆、野呂機角の子より伝えらる（河野美術館本）

⇐1720

1847（弘化 4）10・23
古今和歌集正義総論補注（熊谷直好）を某書写、ついで 11・25、古今和歌集正義補注論（八田知紀）書写（香川景周本による）（国会図書館本）
＊『書目』に補注論を熊谷直好とするは誤り

同　10 下旬
古今集伝授二条冷泉両家切紙又箱伝受を鶴田尹房書写（静嘉堂文庫本 518・18・22049）⇐1480

同　12・24
古今和歌集注（八田知紀）を某書写、自説も書入る（初雁文庫本）⇒1854

1849（嘉永 2）5 －
このころより万延 1・8・21 まで古今和歌集正義（香川景樹）を高橋正純整理繕写す（初雁文庫本）

同
この年、古今和歌集正義（香川景樹）秋上下・冬刊行（三都書肆　京　出雲寺文次郎等）⇐1835

1851（嘉永 4）3・13
了誉序注を鷹司政通書写（東坊城聡長本による）（宮内庁書陵部本）⇐1406
＊鷹司政通この年の干支「辛亥」を多く「辛子」と誤る

同　3 下旬
古今集童蒙抄〔古今和歌集秘抄〕を鷹司政通書写（醍醐忠順本による）（宮内庁書陵部本鷹 358）⇐1501

同　3－
古今和歌集旧詞考（推易堂尚安、巻十）を門人国三郎尚之受く（東京大学国語研究室本）

同　4－
両度聞書仮名序を鷹司政通令写（久我建通本による）（宮内庁書陵部本鷹 411）⇐ 1510

同　7－
古今集撰緝考・古今集仮字序真字序序論（六人部是香）成る（京都大学本）

同　9－
古今和歌灌頂巻を鷹司政通、堤哲長に書写せしむ（徳大寺家本による）（宮内庁書陵部本鷹 482）⇐ 1323

1852（嘉永 5）前年 10・20 ～当年 9・9
古今集伝授二条冷泉両家切紙又箱伝受を成島司直書写し、大久保忠篤本で校合（東海大学桃園文庫本 26・85）

同　2・13
一条家古今集注釈書集成を鷹司政通、源（度会）常典に書写せしめ、奥書す（醍醐忠順本による）（宮内庁書陵部本）

同　2－～ 9－
古今和歌集大全（さゝくまの翁）につき、正直、以前書写せる本の損傷を補綴書写（初雁文庫本）

同　3－
三秘抄を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本鷹 360）⇐ 1738

同　4－
阿古根浦口伝（1）（合写）を鷹司政通書写（宮内庁書陵部本鷹 441）⇐ 1581、1592

同　10－
宗祇略抄（巻十三以下古聞）を久野銀之助書写（河野美術館本）⇐ 1511

1853（嘉永 6） 2・3
古今和歌集正義（香川景樹）を中川長経整理繕写し、識語を付す（内閣文庫本）

同　3上旬
古今集無名作者抄を越如川子書写（東北大学本）

同　6－
玉伝深秘巻を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本 266・277）

同　9・18
古今和歌集正義（香川景樹）自筆本に高橋正純加証す（ソウル大学本）

同　9・19
和歌灌頂次第秘密抄を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本鷹 237）

同　11－
阿古根浦口伝（2）を鷹司政通書写（東坊城聡長本による）（宮内庁書陵部本 166・275）⇐ 1594

1854（嘉永 7） 2中旬
古今相伝蜜勘抄（宮内庁書陵部本鷹 468、古今和歌灌頂巻・毘沙門堂本古今集注〔京都女子大本〕の項に掲出）を鷹司政通書写（興正寺摂信僧正本による）⇐ 1738

同　2－

玉伝深秘巻を鷹司政通、かも胡子・源富子に書写せしむ（興正寺摂信僧正本による）（宮内庁書陵部本鷹 503）⇐ 1660

同　2 －
親房注（序注）を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本鷹 396）⇐ 1425

同　5・4
続万葉論（賀茂真淵）に源利義再び奥書す（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1838

同　5 －
延五記を鷹司政通書写（日野光政本〈尭恵真跡という〉による）（宮内庁書陵部本 266・168）⇐ 1492

同　5 －～ 8 －
諸家口授附録（金沢市立図書館稼堂文庫本 091.8・359、伝授書）を法橋寂樵、書写し、文正院貴師に授与す⇐ 1752

同　7 －
古今和歌集講義（三好好清作木瀬三之聞書、序注のみ）を〔鷹司政通〕、沢馨に書写せしむ（日野光政本による）（宮内庁書陵部本 266・427）⇐ 1694

同　10・3 ～ 10
古今序講本（堀秀成）成る（国会図書館本）⇒ 1858

同　11・14
古今和歌集注（八田知紀）を籌子書写（初雁文庫本）⇐ 1847

同（安政 1）冬

古今和歌集読曲（霊元法皇）を鷹司政通、梅渓通善朝臣に書写せしむ（日野光政本による）（宮内庁書陵部本）

1855（安政 2）1・29
玉伝深秘巻を和気信徳書写、鷹司政通奥書（日野光政本による）（宮内庁書陵部本鷹 29）

1856（安政 3）6 －
古今和歌集一部之清濁同口決条々を〔鷹司政通〕書写せしむ（本願寺光勝僧正本による）（宮内庁書陵部本 266・426）⇐ 1602
＊『書目』の「光膳」を「光勝」に改む

1857（安政 4）2・7
古今三木三鳥考（伊勢貞丈）を宇津木一徳書写（国会図書館本）⇐ 1784

同　3・5
古今浅見抄（島田正篤）、前年秋起筆し、この春成り、この日自序を記す（諸本）

同　4・4 ～ 7
古今集伝授二条冷泉両家切紙又箱伝受を青松斎義允書写（筑波大学本ル 210・27）⇐ 1480

同　4 －
古聞（中冊）を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本鷹 412）⇐ 1506

同　4 －
玉伝深秘巻（合写）を鷹司政通書写（日野光政本による）（宮内庁書陵部本 266・289）⇐ 1699

同　4－
古今伊勢物語切紙を鷹司政通書写（高松家伝来本による）（宮内庁書陵部本 266・80）⇐ 1721

同　4－～ 5・1
歌道筒守（玉木正英）を賑竈軒書写（初雁文庫本）

同　5－～ 6－
顕注密勘（中下冊）を一指書写（度会常典本による）（筑波大学本）⇐ 1766

同　6・16
訂正古今集序（六人部是香）成る（京都女子大学本ＹＭ 911.232・Ｒ・60558）
＊『書目』未載

同　8・14
僻案抄に鷹司政通感得識語（宮内庁書陵部本鷹 645）⇐ 1240

同　11－
三秘抄を〔鷹司政通〕書写（高松家伝来本による）（宮内庁書陵部本鷹 362）⇐ 1615

1858（安政 5） 1－
三鳥三木〔西三条内大臣御伝〕を空蟬庵淳了書写（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1714

同　2・1～ 7
古今序講本（堀秀成）を栗原保定書写（国会図書館本）⇐ 1854

同　2・12～安政 6・12・10
古今和歌集紀氏直伝解（富樫広蔭）草稿本成る（愛知県立大学本）⇒ 1860

＊『書目』未載

1859（安政 6）3 －

古今和歌集伝書（武者小路実蔭伝）書写（ノートルダム清心女子大学本）⇐ 1829

1860（万延 1）7・3 ～ 9・6

古今和歌集紀氏直伝解（富樫広蔭）草稿本に顕昭注を自筆書入す（愛知県立大学本）⇐ 1858

1861（文久 1）9・21

古今和歌集序古格正文（古道閣真弘）刊本に祝部希烈の序あり

同　10・13 ～ 17

古今和歌集序文義考（堀秀成）の草稿成る（東海大学桃園文庫本）⇒ 1865

1863（文久 3）2・9

古今集序経緯文脈図（堀秀成）を関思明書写（九州大学文学部本）

同　春

古今左注論（賀茂真淵）を速水行道取得、校合（国会図書館本）⇐ 1816

同　5 下旬

古今伊勢物語切紙書写（初雁文庫本 12・157）⇐ 1720

同　11・12

古今集存疑（鹿持雅澄）に某一校（宮内庁書陵部本 153・186）⇐ 1841・⇒ 1864

＊『書目』に自筆一校とするは誤り

1864（文久 4）1・19

古今集存疑（鹿持雅澄）に某再校（宮内庁書陵部本 153・186）⇐ 1863

＊『書目』に自筆再校とするは誤り

1865（元治 2）2 下旬

古今集切紙口伝条々〔宗祇流・清原宣賢系〕を光輔書写、公紀朝臣に与う（初雁文庫本 12・171）⇐ 1602

同　2 －

古今和歌灌頂巻・和歌灌頂次第秘密抄を在月庵書写（天理図書館本 911.2・99）⇐ 1413

同　3・1 ～ 7

古今和歌集序文義考（堀秀成）の清書成る、ついで 3・9 ～ 10、校正（東海大学桃園文庫本）⇐ 1861

1866（慶応 2）2 －

古今序正文（高橋富兄）の講義始む（金沢市立図書館本）

＊明治 17・3 －、富兄補訂

1867（慶応 3）9 下旬

古今和歌集大事秘密口伝抄（宮内庁書陵部本 266・417、古今和歌灌頂巻・両度聞書の項に掲出）を和気信徳書写、鷹司政通奥書（日野光政本による）⇐ 1705

同　10 －

古今和歌集序説（荷田春満説）を正弘書写（川上本）⇐ 1778

『書目』未載書一覧

内容は該当箇所を参照されたい。

1192（建久 3）　和歌口伝（伝家隆）
1403（応永 10）　和歌灌頂次第秘密抄
1592（天正 20）　灌頂唯授一子之大事
1698（元禄 11）　古今余材抄
1699（元禄 12）　古今伊勢物語切紙
1701（元禄 14）　為家抄
1705（宝永 2）　三箇秘授
1719（享保 4）　古今集伝受二条冷泉両家切紙又箱伝授
1774（安永 3）　古今切紙二十三条
1778（安永 7）　古今和歌集序説（荷田春満説）
1793（寛政 5）　古今和歌集切紙大事
1797（寛政 9）　古今和歌集秘事
1806（文化 3）　僻案抄
1825（文政 8）　古今集大全（黒沢翁満）
1832（天保 3）　続万葉異本考
1857（安政 4）　訂正古今集序（六人部是香）
1858（安政 5）　古今和歌集紀氏直伝解（富樫広蔭）

『書目』訂正・変更箇所一覧

訂正内容は該当箇所を参照されたい。

1370（応安 3）　為重注
1481（文明 13）　内閣文庫本古今和歌集注
1489（長享 3）　難波津泰諶聞書関連（古今和歌集〔注〕）
1584（天正 12）　古聞

1628（寛永 5）　勧修寺本古今和歌集注
1634（寛永 11）　全注〔中世〕（古今聞書）
1688（元禄 1）　三流抄
1697（元禄 10）　古今集切紙口伝条々〔宗祇流〕
1705（宝永 2）　古今二字相伝・延五記〔序中秘伝切紙〕（合写）
1722（享保 7）　伝授書（古今抄）
1737（元文 2）　八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝
1742（寛保 2）　大江広貞注〔古今集極秘之大事〕、和歌灌頂次第秘密抄
1742（寛保 2）　古今左注論（賀茂真淵）
1760（宝暦 10）　中院古今伝授極秘事抄
1765（明和 2）　八雲神詠秘訣
1801（寛政 13）　伝授書（古今秘奥）
1826（文政 9）　古今集序爪櫛（五十嵐篤好）
1826（文政 9）　古今補註（高井宣風歟）
1847（弘化 4）　古今和歌集正義補注論（八田知紀）
1856（安政 3）　古今和歌集一部之清濁同口決条々
1863（文久 3）　古今集存疑（鹿持雅澄）
1864（文久 4）　古今集存疑（鹿持雅澄）

＊なお、『書目』で「八雲神詠秘訣」としたものを「八雲神詠秘訣」（「前博陸」の奥書あるもの）と「八雲神詠和歌三神並化現大事人丸相伝」（「玄旨」奥書あるもの）とに分けたが、諸家の研究もあり、なお考慮の余地がある。

後記

本年表について、若干の説明を加えておきたい。

念頭にあったのは、西下経一氏編の古今集「研究史年表」（国語国文学研究史大成 7『古今集　新古今集』昭 35 刊、三省堂所収、志村士郎氏作成、ただし、西下氏の全面監修によるものであろう）である。該年表は古今集の注釈書のみならず、

伝本の成立や書写に関する事項も含まれており、年代も古今集成立の延喜五年から昭和三十三年にまで及んでおり、本年表よりはるかに広範囲にわたっているが、本年表作成のきっかけとなったものである。

さらに、本年表作成にはもう一つ目的があった。それは古今集注釈書の弁別に役立てたいとの思いである。『書目』には別称索引、巻頭一覧を付して参考に供したが、さらに本年表の年月日と事項を写本の奥書と比較することで、いささかでも弁別に役立てたいと考えたからである。さらに、本年表により、奥書が広く知られたものか、比較的珍しいものかもある程度推測出来る。

なお、本稿は川上が礎稿を作成したが、名を連ねた五人は、斯道文庫の専任者もしくは研究嘱託（当時）として『古今集注釈書伝本書目』編纂に引き続き、本年表の作成に関わったものであることを申し添えておく。